

間違いだらけの 論客選び

Revenge

「劣化言説の時代」を中心とする
〈平成論壇〉要覧

新テキストマイニングレポート Vol.1

後藤和智（後藤和智事務所 OffLine）

2023年5月21日

（文学フリマ東京 36 / 技術書典 14 オンライン）

間違いだらけの 論客選び Revenge

「劣化言説の時代」を中心とする
〈平成論壇〉要覧
新テキストマイニングレポート Vol.1
後藤和智（後藤和智事務所 OffLine）
2023年5月21日（文学フリマ東京 36）

注意

1. 本書で使用したテキストデータは元の書籍を著者自らがデータ化したものです。
2. 本書を著作権法の定める私的使用の範囲外で公開などを行うことを禁じます。また、本書の使用により生じた問題についての責任は負いかねます。

まえがき・データの概要

1. まえがき

92冊目の同人誌となります。後藤和智です（91冊目は2023年5月21日の技術書典でプレ版を出し、「コミックマーケット102」で完全版を出す予定でしたが、2023年5月20日現在で少しも手を付けておりません。誠に申し訳ありません。また三陸鉄道と三陸自動車道のレポート本となる予定の81冊目しばらく執筆が滞っているので、実質的に90冊目となります。申し訳ありません）。さて、本書は、タイトルにもあるとおり、1990年代以降に出た様々な「日本人論」「日本社会論」を計量テキスト分析を用いてデータ化し、一様の指標に基づいて評価してみせようという『間違いだらけの論客選び』シリーズの最新版です。

このシリーズは、まず2016年の「コミックマーケット91」で、2010年代に出た40冊を分析した『間違いだらけの論客選び』に始まり、2017年の「コミックマーケット93」では、それ以前の1990年代末以降、いわゆる「劣化言説の時代」以降の書籍を比較研究するために、冊数を105冊に増やした『間違いだらけの論客選び・改』を出しました。2018年の「コミックマーケット95」ではさらに冊数を増やして283冊にした『新・間違いだらけの論客選び』を出しましたが、一つ一つ分析するのではなく40のクラスターに分けて分析を行いました。しかし、内容的にもレイアウト的にもあまりよろしいものではなく、『改』に比べて大きく売り上げを落としました。

その後、2020年に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴う行動制限によって、5月の大型連休中に開催されるはずだった「コミックマーケット98」が中止となり、それならばと思ひ分析冊数を320冊に増やしたウェブ連載「新・間違いだらけの論客選び REMASTER」をnoteで行ったのですが、連載から3回でフェードアウトしてしまいました。やはり私には同人誌が似合うということでしょうか。

その後、2021年から2022年にかけて、コミケや文学フリマなど同人誌即売会が復活してきたことに伴い、在庫の奥から『間違いだらけの論客選び』シリーズを引き出して頒布していたのですが、特に『改』がそこそこ売れており、このシリーズはまだまだニーズがあるのだなと実感しました。特に、入場にチケットやカタログなどの購入が不要である文学フリマやおもしろ同人誌バザールなどの、同人誌文化に馴染みのない人たちも足を運ぶようなイベントで関心を向けてくれる人が多かったのが印象的でした。論壇や知識人のあり方について、それだけ関心を持つ人が意外にも多いということなのでしょう。

他方、評論系の書籍を出す出版業界の我が国の社会に対する責任感、残念ながら低いと言わざるを得ません。一時期いわゆる「ヘイト本」が批判されることがありましたが、それらの批判も現在は低調であり、テレビで有名になった論客の評論や自己啓発書チックな書籍を安直に出してみせる様ばかり見受けられます。そしてそのような状況を「若者に人気」と錯覚した主として左派系の論客によって、出版業界よりも若い世代に敵意が向けられてしまっています。

このような状況がなぜ生まれたのかという分析は別にして、本書は今まで通り「カタログ」を作ることにによりまずは現実を見てほしい、ということに注力したいと思います。ただ、本書は諸般の事情で近年の書籍のデータ（後述しますが、自ら購入した書籍をスキャンしてOCRを使ってテキストデータ化しています）を得ることができなかったため、2018年までの私がデータで持っている書籍を、できるだけ幅広いトピックを網羅する形で分析することにしました。また、香山リカや櫻井よしこ、山田昌弘といった集中的に分析している著者もいますので、分析結果を見比べるのもいいでしょう。

2018年というと既に5年前ですが、現在はその5年前の言論すらも忘れ去られている状況です。2023年に入り、成田悠輔やたかまつななといった反高齢者的な「若手論客」による言説がロスジェネ層を脅かしていますが、元々そのような言説は10～20年くらい前にロスジェネ層が熱狂した言説の焼き直しでしかありません。過去の言説の忘却が、無用な若者バッシングを生み出している現状を見るに、やはりこのシリーズを再始動させる必要があります。

本書では1990年代末～2018年を中心に330冊の書籍を分析していますが、もちろんこれだけでは当時の言論の全てを網羅しているとは言えません。ただ、こういう本があって、こういう特徴を持っているのだということを、少しでも多くの人に知ってもらいたい。そう思っております。

2. 分析の概要

本書は、まえがきに記した通り、1990年代～2018年のいわゆる平成年間（平成は正確には1988年1月8日からだが、メディアで「平成」と回顧される時代が主として1990年代以降なのでこのようにした。また、平成という天皇の在位期間を基準とする時代区分には強い批判があることも忘れてはならない）に出された「日本論」「日本人論」「日本社会論」を計量テキスト分析によって分析し、頻出する単語と2つの指標からその特徴を見出すものである。書籍は全て著者が自費で購入したものをスキャナを使ってPDF化し、OCRを使ってデータ化したものを使用している。OCRソフトはパナソニックの「読取革命 Ver.15」を用いた。また、誤認識は目視及びMicrosoft Excel VBAを用いて修正した。誤認識の修正については拙著『Book Analysis Maniax』（後藤和智事務所 OffLine、2018年）を参照されたい。また、KH Coderに読み込ませるにあたり、データの階層は、書籍をH1、章をH2、小見出しをH4相当としている（また、書籍の構成に応じて適宜H3やH5を設定している）。

これにより取得したテキストデータをフリーのテキストマイニングソフト「KH Coder」（<http://kncoder.net/>）を用いて単語の集計を行った。形態素解析エンジンはKH Coderに入っているMeCabを使い、辞書は2023年5月1日に取得した、新語に強い辞書であるNEologd(mecab-ipadic-NEologd)を用いた。

分析に使用した単語は、全体での出現数が50000以下750以上の1771単語を用いた。なお使用した単語の一覧は付録として巻末に収録している。本書では、まず100文あたりの出現頻度をMicrosoft Excelを用いて計算して、指標の一つにしている（ただし、NEologdが「この国。」や「娘。」を単語として認識するため、実際の文の数をやよりも少し少なくなる場合がある）。

新テキストマイニングレポート Vol.1 間違いだらけの論客選び Revenge

カテゴリ01

上位	書名	使用率	下位	書名	使用率
1	香山リカ『若者の法則』	84.8467	1	佐伯啓思『日本の宿命』	33.2040
2	香山リカ『就職がこわい』	83.2356	2	野口悠紀雄『1940年体制』	33.8141
3	マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』	82.4739	3	大澤真幸『不可能性の時代』	34.7722
4	寺脇研『何処へ向かう教育改革』	82.1394	4	元田與市『ぼくらは現代社会でゼロ化する』	35.0893
5	ちきりん『未来の働き方を考えよう』	81.1609	5	櫻井よしこ『頼るな、備えよ 論戦2017』	36.3381

カテゴリ02

上位		下位			
1	本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』	93.2070	1	牧村朝子『ハッピーエンドに殺されない』	45.2918
2	宇野重規『《私》時代のデモクラシー』	92.8023	2	角川いつか『「昭和の男」がなくなる日』	48.0436
3	鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義』	92.3584	3	三浦展『女はなぜキャバクラ嬢になりたいのか?』	49.6046
4	伊谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』	92.2179	4	藤井憲一郎『若者殺しの時代』	51.1628
5	鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』	91.7287	5	酒井順子『負け犬の遠吠え』	51.4682

カテゴリ03

上位		下位			
1	山田昌弘『結婚の社会学』	44.4674	1	白井聡『永続教戦論』	4.0415
2	牛窪恵『おゆとりさま消費』	37.4502	2	辺見庸『単独発言』	4.1753
3	三浦展『下流社会』	32.5207	3	加藤典洋『敗戦後論』	4.1962
4	岩村暢子『日本人には二種類いる』	31.1083	4	内田樹『日本辺境論』	4.9946
5	山田昌弘『少子社会日本』	30.5077	5	田中英道『日本人が知らない日本の道徳』	5.0054

カテゴリ04

上位		下位			
1	中川淳一郎『ウェブはバカと職人のもの』	55.3753	1	野口悠紀雄『1940年体制』	4.2067
2	徳川真夫『ネットの炎上力』	46.1564	2	正村公宏『成熟社会への選択』	4.2584
3	中川淳一郎『ウェブを炎上させるイタイ人たち』	43.2170	3	山田昌弘『少子社会日本』	5.0773
4	佐々木俊尚『ブログ論壇の誕生』	41.4137	4	山田昌弘『新平等社会』	5.3182
5	香山リカ『ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか』	40.5073	5	橋本努『ロスト近代』	6.9721

カテゴリ05

上位		下位			
1	藤本耕平『つくし世代』	47.2617	1	野口悠紀雄『1940年体制』	2.4840
2	カレー沢廉『女って何だ?』	44.2266	2	正村公宏『成熟社会への選択』	5.0239
3	上野千鶴子『女ぎらい』	43.7115	3	藤本一勇『批判感覚の再生』	5.4624
4	深澤真紀『平成男子凶鑑』	43.4485	4	佐伯啓思『日本の宿命』	5.7021
5	原田曜平『近頃の若者はなぜダメなのか』	42.8065	5	白井聡『永続教戦論』	6.3731

カテゴリ06

上位		下位			
1	東浩紀『動物化するポストモダン』	47.7401	1	三浦展『「かまやつ女」の時代』	4.5960
2	宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	43.6220	2	三浦展『女はなぜキャバクラ嬢になりたいのか?』	4.7443
3	前島賢『セカイ系とは何か』	42.6130	3	三浦展『下流社会』	6.2098
4	小森陽一『心脳コントロール社会』	42.5601	4	柘植智幸『「ゆとり教育世代」の恐怖』	6.3559
5	宇野常寛『リトル・ビールの時代』	41.2378	5	田北百樹子『ショガー社員が会社を溶かす』	6.6693

3. 多次元尺度構成法による単語のカテゴリ化

まず、分析に用いる 1771 単語を、KH Coder の機能の一つである多次元尺度構成法によって単語を 12 のカテゴリーに分けた。カテゴリーの分類は、基準は小見出し (H4) とし、指標は Jaccard 計数とした。分類結果については別表の通り。これを元にして KH Coder で用いるコーディングルールを作成し、それぞれの単語がどのくらいの割合の文で出ているかということを集計した。

多次元尺度構成法による単語の分類は、主としてどのようなトピックを用いているかということを示す指標となった。例えば「コミュニケーション」と名付けたカテゴリー 3 では、家族論やマーケティング系の評論が出現率の上位に出てきた一方、歴史系の書籍が下位になっている。ただ、カテゴリー 6 は、内容から「犯罪・社会病理」としたが、出現頻度の上位に位置付けられた書籍は意外にも東浩紀や宇野常寛といった「ゼロ年代の言論」と言われるようなサブカルチャー系の論客であった。このように、単語と書籍の特徴が乖離している場合も見受けられた。

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

カテゴリ07

上位			下位		
1	岩木秀夫『ゆとり教育から個性浪費社会へ』	54.2714	1	酒井順子『負け犬の遠吠え』	3.7520
2	柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育』	53.4183	2	雨宮まみ『女子をこじらせて』	4.2738
3	本田由紀『多文化する「能力」と日本社会』	47.2736	3	李信恵『#鶴橋安楽』	4.3535
4	広田照幸『《愛国心》のゆくえ』	46.6307	4	角川いつか『「昭和の男」がなくなる日』	4.6183
5	橋本努『ロスト近代』	45.1306	5	堀井憲一郎『若者殺しの時代』	4.6512

カテゴリ08

上位			下位		
1	東浩紀『動物化するポストモダン』	39.4068	1	山田昌弘『少子社会日本』	1.1921
2	岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』	39.0649	2	野口悠紀雄『1940年体制』	1.5224
3	羽生雄毅『OTAKUエリート』	34.1603	3	山田昌弘『家族難民』	2.3304
4	本田透『電波男』	33.2861	4	正村公宏『成熟社会への選択』	2.4402
5	前島賢『セカイ系とは何か』	32.6351	5	山田昌弘『新平等社会』	2.4545

カテゴリ09

上位			下位		
1	加藤典洋『戦後入門』	47.8547	1	NHK「無縁社会プロジェクト」取材班『無縁社会』	1.2425
2	白井聡『永続敗戦論』	47.3057	2	角川いつか『「昭和の男」がなくなる日』	1.6036
3	山崎雅弘『戦前回帰』	41.2774	3	雨宮まみ『女子をこじらせて』	1.8109
4	木下ちがや『ポピュリズムと「民意」の政治学』	40.5784	4	原田曜平『ヤンキー経済』	2.1820
5	広田照幸『《愛国心》のゆくえ』	40.0719	5	伊藤春香『恋愛炎上主義。』	2.2315

カテゴリ10

上位			下位		
1	正村公宏『成熟社会への選択』	53.6364	1	牧村朝子『ハッピーエンドに殺されない』	2.4867
2	山田昌弘『新平等社会』	51.5455	2	デュラン・れい子『一度も植民地になつたことがない日本』	2.8865
3	勝間和代『会社に人生を預けるな』	49.7959	3	李信恵『#鶴橋安楽』	3.0240
4	柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育』	45.5202	4	加藤典洋『敗戦後論』	3.0546
5	立木信『この国の経済常識はウソばかり』	45.3134	5	金村詩恩『私のエッジから観ている風景』	3.1313

カテゴリ11

上位			下位		
1	山田昌弘『少子社会日本』	60.2649	1	加藤典洋『敗戦後論』	1.2959
2	山田昌弘『結婚の社会学』	56.1512	2	佐伯啓思『日本の宿命』	1.9395
3	山田昌弘『家族難民』	53.3402	3	辺見庸『単独発言』	2.6044
4	山田昌弘『新平等社会』	49.9091	4	白井聡『永続敗戦論』	2.6943
5	山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』	45.8830	5	金村詩恩『私のエッジから観ている風景』	2.7778

カテゴリ12

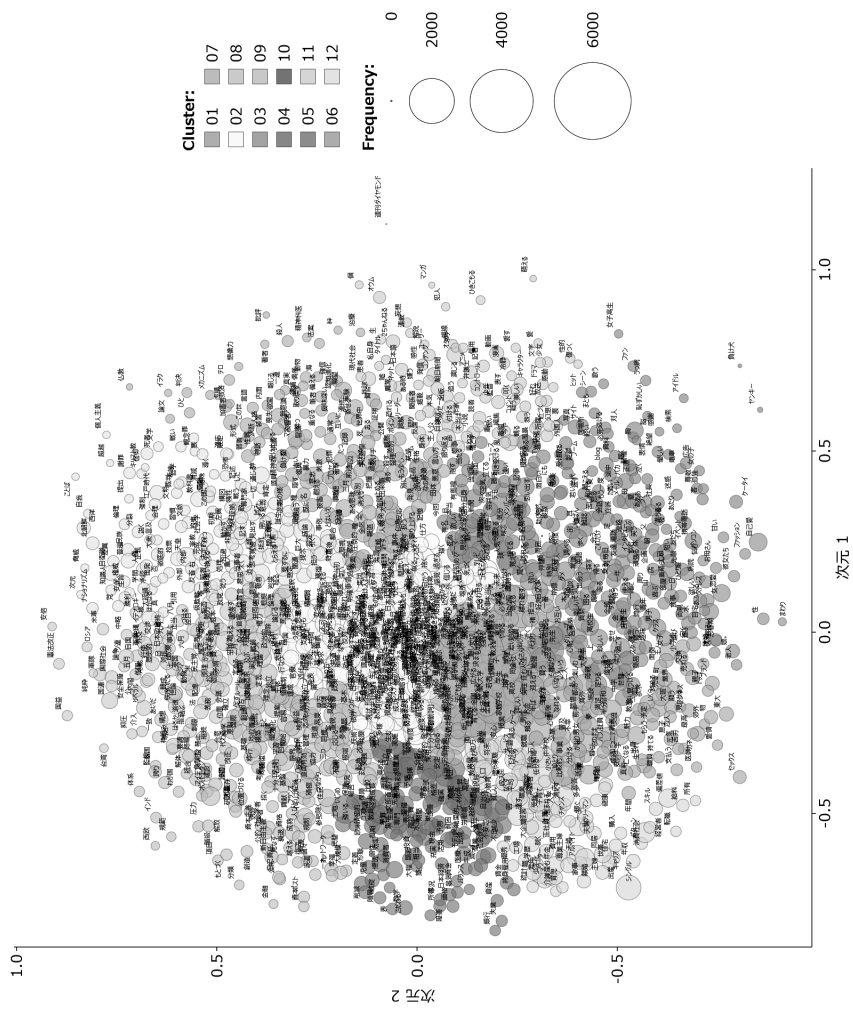
上位			下位		
1	山崎雅弘『戦前回帰』	44.8046	1	NHK「無縁社会プロジェクト」取材班『無縁社会』	3.4543
2	中西輝政『国民の文明史』	40.9823	2	牛窪恵『おひとりさま消費』	3.4861
3	藤本一勇『批判感覚の再生』	37.5659	3	山田昌弘『少子社会日本』	3.7086
4	北田暁大『嗚う日本の「ナショナリズム」』	36.5217	4	三浦展『「かまやつ女」の時代』	3.9899
5	奥那勲浩『中国化する日本』	36.1968	5	デュラン・れい子『一度も植民地になつたことがない日本』	4.1914

新テキストマイニングレポート Vol.1 間違いだらけの論客選び Revenge

<p>カテゴリ01 [一般的なもの]</p>	<p>自分,子ども,女性,若者,世代,学校,家族,人達,企業,大学,会社,相手,能力,学生,大人,人生,お金,家庭,一人,環境,高校,生徒,気持ち,原因,レベル,悪い,誰か,未来,機会,現場,ケース,全国,同士,時点,小学校,全員,出し手,代わり,仕事,生活,話,経験,調査,成長,紹介,期待,消費,勉強,利用,支援,授業,提供,担当,用意,好き,不安,豊か,普通,大切,大事,事,当たり,前,十分【形容動詞】無理,大変,予供達,東京,今,前,時間,最近,昔,たくさん,一番,今後,近年,言う,思う,出す,持つ,出る,生きる,感じる,使う,働く,行く,入る,呼ぶ,聞く,作る,変わる,違う,増える,出す,起きる,来る,取る,入れる,始める,戻る,貰う,超える,教える,答える,比べる,決める,続ける,話す,残る,限る,育てる,学ぶ,育つ,始める,広がる,集まる,考える,抱える,上がる,決まる,離れる,占める,上げる,自立つ,多い,高い,少ない,悪い,若い,良い,低い,難しい,厳しい,早い,少し,本当に,特に,必ず,あと,からだ,しない,きつかけ,いる,わかる,やる,しれる,つく,つける,つくる,かける,なくなる,いく,かかる,やめる,くる,人,親,心,目,子,声,別,場,身,気,道,数,面</p>
<p>カテゴリ02 [社会評論的な単語]</p>	<p>社会,人間,世界,時代,言葉,日本人,人々,現実,国民,国家,一つ,状況,情報,個人,理由,政治,文化,歴史,経済,事件,価値,システム,制度,テレビ,自己,他者,政府,状態,中心,立場,内容,思想,現代,メディア,責任,近代,地域,自身,教師,最初,対象,精神,傾向,構造,考え方,自体,コミュニケーション,場所,感覚,目的,出端,世紀,部分,最後,感情,他人,関心,一般,政治家,二つ,前提,特徴,考え,役割,事態,集団,方法,現象,知識,理想,主義,権利,条件,背景,態度,概念,政権,方向,官僚,動き,段階,最大,要素,危機,本質,現状,視点,マスコム,流れ,姿勢,過程,市民,効果,手段,程度,答え,事情,行政,側面,努力,素手,典型,方針,意味,存在,関係,教育,批判,戦争,意識,主張,変化,議論,理解,行動,説明,指摘,影響,表現,評価,通り,発言,機能,行為,否定,組織,研究,意見,実現,登場,イメージ,参加,選択,活動,認識,反対,運動,判断,対応,支配,代表,形成,成立,成功,分析,拡大,展開,維持,解決,体験,発表,注目,支持,要求,象徴,想像,決定,共同,共有,確認,発生,共通,失敗,発想,構成,排除,依存,獲得,必要,自由,重要,明らか,可能,さまざま,自然,非常,同様,完全,簡単,新た,危険,明確,不可能,困難,疑問,様々,安全,単純,深刻,私たち,可能性,自分たち,価値観,社会的,民主主義,日本社会,基本的,ここに,自民党,日本,アメリカ,中国,問題,違い,間違い,仕方,場合,多く,いま,結果,現在,すべて,当時,戦後,事実,全体,自ら,つと,その後,以降,それぞれ,一部,以前,時期,今日,結局,過去,本来,絶対,ほか,はじめ,直接,従来,以来,一月,当初,考える,書く,知る,行う,受け,語る,見える,述べる,求める,生まれる,読む,得る,与える,言える,示す,終わる,認める,失う,守る,変える,描く,進む,続く,異なる,起こる,選ぶ,立つ,信じる,生じる,分かる,繰り返す,置く,支える,含む,向かう,向かう,至る,気づく,抱く,受け入れる,目指す,開く,加える,現れる,行なう,基づく,触れる,忘れる,含める,過ぎる,起こす,集める,生み出す,残す,進める,挙げる,似る,訴える,果たす,取り上げる,合わせる,関わる,陥る,帯び,連げる,伴う,守る,強い,大きい,新しい,正しい,深い,深い,広い,実際,当然,同時に,最も,決して,初めて,少なくとも,常に,さらに,再び,必ずしも,そのもの,そのため,しよう,どこか,つまり,いくつか,きた,できる,いう,もつ,かわかる,よる,みる,とる,いえる,つながる,もたらす,なす,える,あげる,国,手,本,力,次,先,間,他,形,逆,姿,例,下,側,口,外</p>
<p>カテゴリ03 [コミュニケーション]</p>	<p>男性,二人,男女,生き方,職場,都市,海外,女子,社員,生まれ,出身,コミュニティ,前半,モテ,魅力,ビジネス,息子,業界,心理,事業,成績,パワフル,遊び,ブランド,恋人,医師,一手,カネ,暮らし,郊外,トップ,中学校,職員,小学生,親子,年間,愛情,教室,最高,セックス,卒業,病気,普及,施設,回答,活躍,交換,交流,Twitter,にも,今回,日々,瞬間,今度,夜,いばげん,途中,あ,ああ,死ぬ,伝える,見せる,動く,歩く,出来る,飲む,立てる,怒る,叫ぶ,指す,思ひ出す,笑う,流す,並ぶ,流れる,知れる,昭和,いない,東大,大阪,半分,前後,半分,住む,暮らす,迎える,払う,売る,楽しむ,辞める,売れる,遊ぶ,亡くなる,分ける,頼る,願う,持てる,見つかる,支払う,小さい,詳しい,安い,狭い,比較的,一気に,それなり,ゆとり,かなり,このまま,いく,なれる,もう,夢,年,妻,中,町,物</p>
<p>カテゴリ04 [いわゆる若者文化]</p>	<p>ネット,映画,インターネット,記事,雑誌,日常,新聞,人気,名前,バカ,話題,女の子,テーマ,ブーム,写真,本当,気分,空気,ニュース,メンバー,負け犬,ファン,音楽,サイト,場面,パソコン,様子,社長,ヤンキー,うつつ,雰囲気,複数,距離,風景,模試,物事,資料,アイドル,電車,対人,シーン,居場所,表情,デモ,電話,作業,メール,会話,注意,広告,インタビュ,感謝,連絡,絶望,開催,検索,尊敬,ヒット,有名,不思議,勝手,嫌,立派,迷惑,孤独,身近,必死,正直,まとも,人間関係,blog,自分自身,ケータイ,携帯電話,外国人,有馬線,若い世代,女子高生,Twitter,にも,今回,日々,瞬間,今度,夜,いばげん,途中,あ,ああ,死ぬ,伝える,見せる,動く,歩く,出来る,飲む,立てる,怒る,叫ぶ,指す,思ひ出す,笑う,流す,並ぶ,流れる,知れる,着る,重ねる,振り返る,届く,打つ,引き受ける,受け取る,落とす,聞こえる,返す,助ける,泣く,歌う,逃げる,苦しむ,当たる,観る,満ちる,眺める,面白い,激しい,怖い,速い,優しい,恥ずかしい,軽い,突然,次々,ある程度,実にもう一度,ただ,つて,あたり,父,母,頭,髪,脳,月,体,足,耳,壁,窓,夏,胸,裏</p>
<p>カテゴリ05 [エッセイ・感病的な単語]</p>	<p>子供,母親,先生,商品,父親,本人,友人,世の中,世間,感じ,周囲,男子,英語,仲間,タイプ,高校生,友達,地元,グループ,趣味,興味,常識,部屋,大学生,両親,自信,青年,病院,お互い,上司,友だち,ファッション,中学生,中学,クラス,スタイル,イベント,種類,ストレス,周り,先輩,自宅,お母さん,老人,医者,思春期,恋愛,取材,質問,一緒,実感,そうだ,納得,相談,心,配,満足,流行,企画,食事,幸せ,歹,残念,特別,若者たち,彼女たち,娘,。何度,自己愛,一年,一緒に,。,-一日,近く,毎日,全部,朝,送る,食べる,驚く,覚える,困る,帰る,捨てる,探す,会う,乗る,見つける,走る,待つ,訪れる,出会う,通り,頭振る,切る,落ちる,過ごす,合う,調べる,悩む,借りる,足りる,回る,使える,喜ぶ,経つ,向く,楽しい,楽しい,欲しい,短い,素晴らしい,明るい,甘い,ひとりで,これだけ,まわり,やってくる,あふれる,男,女,家,家,顔,顔,大,金,性,住,上,車,水,山</p>
<p>カテゴリ06 [犯罪・社会病理]</p>	<p>物語,作品,本書,身体,空間,ゲーム,欲望,暴力,犯罪,文章,人物,警察,原案,人格,言語,性格,印象,映像,議員,被害,出来事,動物,筆者,事故,地球,意志,世界中,内面,弱者,団体,マスメディア,言い方,真実,悪意,舞台,ポロ,論文,手法,無意識,リーダ,受け手,全区,形式,プロセス,法案,衝撃,冒頭,大抵,通常,一連,殺人,仏教,著者,ポイント,メカニズム,性質,神話,この世,報道,記憶,差別,信頼,反応,無視,虚構,発見,前述,区別,逮捕,治療,共感,記録,公開,判決,抗議,誤解,連絡,喪失,装置,進化,証明,把握,整理,観察,批評,願望,実験,刺激,救済,復興,決断,確信,認知,過剰,複雑,圧倒的,被害者,とはいえる,ある意味,想像力,精神科医,精神的,加害者,なか,イラク,全て,三月,偶然,許す,殺す,捉える,扱う,消える,振る,隠す,耐える,止める,負ける,勝つ,恐れる,寄せる,優れる,備える,重なる,受け止める,通る,取り戻す,古い,興味深い,別に,全く,もう少し,改めて,互いに,ひと,たつ,おる,死,種,名,草,海,絆</p>

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

<p>カテゴリ07 [政治思想]</p>	<p>政策、技術、体制、基本、伝統、人びと、理論、利益、目標、あり方、主体、課題、理念、戦略、法律、領域、国内、ルール、科学、具体、エリート、ネットワーク、地位、見方、不満、国際、三つ、原則、やり方、基礎、成果、学者、資源、ポスト、住民、諸国、範囲、資本、基盤、観点、十分[名詞]、相互、金融、限界、規範、階級、わが国、研究者、民間、アイデンティティ、項目、公共、資格、例外、大規模、体系、誇り、個々、各国、圧力、同軸、改革、崩壊、発展、強調、志向、重視、開発、独立、管理、定義、指導、検討、構築、確保、成熟、実践、転換、規制、強化、改正、回復、尊重、解放、協力、提案、一定、達成、確立、位置、直面、建設、合意、反映、優先、推進、追求、準備、派遣、解体、参照、開始、監視、禁止、移行、解消、考察、設置、定着、調整、貢献、統合、既存、衰退、継続、分類、復活、創造、制限、平等、高度、幸福、極端、容易、有効、積極、適切、個的、個別、資本主義、具体的、第一、新自由主義、ポストモダン、自己責任、社会学者、一九、イギリス、ヨーロッパ、フランス、インド、西欧、多数、四月、奪う、成り立つ、応じる、及ぶ、結びつく、見なす、招く、定める、除く、代わる、位置づける、越える、負う、促す、図る、つながり、もと、すぎる、まとめる、もとづく</p>
<p>カテゴリ08 [メディアカルチャー]</p>	<p>オタク、読者、少年、アニメ、少女、主人公、キャラクター、患者、小説、番組、作家、日本語、記者、怒り、マンガ、メッセージ、文字、オウム、漫画、動画、視線、ドラマ、犯人、ネタ、本気、ユーザー、弁護士、感性、違和感、タイトル、ある時、コンテンツ、自殺、出版、コメント、幻想、掲載、コントロール、反論、感動、連載、扱い、編集、監督、所属、解説、発信、妄想、放送、信用、性的、生、異常、冷静、2ちゃんねる、ネット上、私自身、週刊ダイヤモンド、現代社会、関係者、朝日新聞、萌える、愛す、好む、救う、疑う、叩く、返う、付ける、表す、近づく、演じる、押す、嫌う、傷つく、美しい、重い、今や、本当は、ひきこもる、愛、命、嘘、個、風</p>
<p>カテゴリ09 [政治]</p>	<p>首相、憲法、権力、論理、道徳、原理、根拠、秩序、外交、外国、戦前、他方、イデオロギー、両者、勢力、義務、後者、リベラル、動機、会場、政党、根本、世論、枠組み、路線、自国、軍事、国益、他国、冷戦、軍隊、最終、内閣、対立、解釈、破壊、規定、自覚、矛盾、引用、意思、使用、意図、保守、中略、徹底、敗戦、宣言、対抗、会議、構想、実行、対処、放棄、交渉、要請、行使、抑圧、配慮、賛成、指示、介入、変更、一貫、一致、論争、平和、はるか、正当、純粹、独自、共同体、政治的、明治、国際社会、日本政府、最終的、事実上、憲法改正、歴史的、安全保障、米軍、民主党、国連、安倍、米国、韓国、米、アジア、ドイツ、沖縄、台湾、日、ロシア、英国、ソ連、あいた、二月、六月、九月、五月、七月、八月、論じる、経る、結ぶ、従う、唱える、仮に、かたち、めぐる、みなす、とどまる、おく、づける、いたる、法、公</p>
<p>カテゴリ10 [教育・経済]</p>	<p>格差、市場、リスク、階層、分野、学力、モデル、産業、要因、基準、仕組み、土地、水準、エネルギー、所得、長期、規模、貧困、人材、医療、高位、個性、専門、コスト、資金、選択肢、単位、賃金、障害、福祉、予算、税金、銀行、意欲、教員、資産、形態、期間、不況、効率、価格、自治体、児童、景気、バランス、農業、数学、労働、雇用、増加、競争、採用、導入、低下、自立、負担、学習、比較、上昇、昇進、投資、報告、減少、対策、生産、実施、進行、出現、保護、予測、予想、発揮、増大、運営、保証、進学、向上、保障、改善、活用、整備、集中、相当、浸透、充実、破綻、削減、失業、安定、多様、確実、不安定、急速、主、大編、顕著、平成、経済的、労働者、消費者、先進国、ゆとり教育、経済成長、積極的、社会保障、日本経済、結果的、終身雇用、一般的、文部省、欧米、生む、高まる、高める、取り組む、築く、強いる、減らす、貧しい、いじめ、こたわる、質、表</p>
<p>カテゴリ11 [ロジェネ論的な単語]</p>	<p>フリーター、収入、地方、年齢、職業、人口、正社員、教授、データ、割合、学歴、万人、実態、年金、数字、夫婦、サラリーマン、余裕、年収、未婚、住宅、給料、パターン、世帯、工場、家事、若年、スキル、少子化、主婦、シングル、チャンス、キャリア、費用、結婚、希望、就職、サービス、子育て、平均、経営、安心、移動、計算、アルパイト、離婚、受験、不足、所有、転職、介護、入学、出産、購入、育児、統計、同居、大量、健康、優秀、高齢者、消費社会、大企業、専業主婦、偏差値、経営者、将来、後半、一生、毎年、減る、望む、下がる、増やす、稼ぐ、産む、満たす、就く、達す、恵まれる、任せる、多少、なくす、夫、因、差、職、雇</p>
<p>カテゴリ12 [社会思想・哲学]</p>	<p>文明、天皇、宗教、革命、大衆、人類、民族、大統領、事例、人権、問い、ナショナリズム、外部、内部、文学、国会、左翼、権威、教科書、言説、当事者、正義、一種、犠牲、裁判、差異、倫理、キリスト教、知識人、都合、哲学、生命、唯一、前者、戦い、構図、普遍、証拠、初期、死者、西條、自決、意義、脅威、習慣、合理、試み、安眠、次元、攻撃、表明、恐怖、思考、関連、選挙、特定、設定、肯定、結論、反発、抵抗、計画、非難、提示、誕生、承認、想定、混乱、記述、拒否、処理、強制、表明、恐怖、反省、学問、勝利、信仰、約束、限定、適応、完成、覚悟、超越、謝罪、回避、観念、左右、提出、分裂、投票、言及、消滅、出版、巨大、正確、決定的、徹底的、特殊、奇妙、其の様、重大、この国、専門家、江戸時代、社会学、個人主義、自衛隊、北朝鮮、直後、一切、用いる、戦う、記す、引く、担う、問違う、迫る、動かす、欠く、通じる、保つ、見出す、言い換える、説く、導く、要するに、既に、ことば、した、とらえる、ほかなる、神、敵、真、核、悪、右、罪、否、究</p>



「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

因子01[認識論的傾向]				因子02[情緒的傾向]				因子03[政治論的傾向]				因子04[家族論的傾向]				
順位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	
1	前部	0.6894	聞く	-0.4204	人達	0.6633	政策	-0.3131	首相	0.6687	言う	-0.3154	増える	0.7294	むむ	-0.2197
2	自己	0.6543	行く	-0.4166	気	0.5718	改革	-0.2679	明らか	0.6201	消費	-0.2912	生産	0.7019	つづ	-0.2154
3	同時に	0.5915	出す	-0.3514	遠く	0.5696	米国	-0.2642	米商	0.6043	商品	-0.2808	結婚	0.6516	残る	-0.2082
4	現実	0.5798	入る	-0.3209	感じる	0.5435	いたらず	-0.2642	主義	0.5942	生る	-0.2588	親	0.6445	現実	-0.2069
5	提	0.5703	来る	-0.2981	最近	0.5401	システム	-0.2510	中国	0.5646	行く	-0.2586	低い	0.6358	思想	-0.2017
6	開	0.5679	買う	-0.2909	気持ち	0.5300	構造	-0.2480	守る	0.5396	時間	-0.2515	男性	0.6041	政治	-0.1962
7	そのもの	0.5625	やる	-0.2808	本当に	0.5108	抑制	-0.2463	欲	0.5367	感覚	-0.2394	家族	0.5917	現	-0.1953
8	構造	0.5579	昔	-0.2237	少し	0.4995	政府	-0.2437	居る	0.5135	好き	-0.2300	将来	0.5843	そのもの	-0.1943
9	個人	0.5540	使う	-0.2179	目	0.4803	政府	-0.2424	反対	0.4957	昔	-0.2284	少ない	0.5660	文化	-0.1923
10	本書	0.5506	かける	-0.2059	ける	0.4612	制度	-0.2413	国民	0.4699	トビコソツゲン	-0.2171	女性	0.5431	力	-0.1901
11	異なる	0.5233	開	-0.2059	やる	0.4478	制度	-0.2364	国民	0.4655	家	-0.2166	高い	0.5157	批判	-0.1889
12	去る	0.5296	残る	-0.2011	開	0.4395	示す	-0.2320	事実	0.4437	入る	-0.2163	書か	0.4734	権力	-0.1887
13	建設	0.5123	お金	-0.1967	他人	0.4293	実施	-0.2264	かわる	0.4384	システム	-0.2135	調査	0.4681	メディア	-0.1860
14	いたらず	0.5150	入れる	-0.1940	来る	0.4198	守る	-0.2240	認める	0.4377	世代	-0.2154	期待	0.4602	おと	-0.1844
15	情報	0.5082	東京	-0.1906	つく	0.4078	機能	-0.2193	発表	0.4247	書か	-0.2141	発表	0.4466	しい	-0.1815
16	定べる	0.5007	中国	-0.1838	悪い	0.3812	建設	-0.2189	政府	0.4134	お金	-0.2118	傾向	0.4248	発表	-0.1815
17	分析	0.4976	遠く	-0.1801	言う	0.3727	首相	-0.2159	首相	0.3994	やる	-0.2065	経済	0.3851	権	-0.1771
18	対象	0.4899	首相	-0.1773	心	0.3725	支配	-0.2049	定べる	0.3849	少し	-0.2020	家	0.3704	すべて	-0.1706
19	示える	0.4890	開	-0.1663	書か	0.3701	つく	-0.2021	否定	0.3790	補給	-0.1995	状況	0.3889	報道	-0.1680
20	開	0.4856	社会	-0.1656	紹介	0.3695	変える	-0.1991	同様	0.3702	仕事	-0.1974	特に	0.3632	教育	-0.1649
因子05[行動学的傾向]				因子06[社会経済的傾向]				因子07[労働経済論的傾向]				因子08[教育的傾向]				
順位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	
1	能力	0.7069	来る	-0.1852	単語	0.4583	劣	-0.4572	仕事	0.6710	事件	-0.3026	行く	0.9131	行く	-0.1690
2	現実	0.5840	終わる	-0.1560	経済	0.4491	行く	-0.4231	企業	0.6598	行為	-0.2600	教師	0.8389	個人	-0.1511
3	力	0.5823	聞く	-0.1513	建設	0.4232	欠	-0.4037	親	0.6197	子	-0.2339	言葉	0.7432	政治家	-0.1497
4	本格的	0.5233	自由	-0.1489	企業	0.4160	女性	-0.3907	会社	0.5731	相手	-0.2200	子ども	0.6787	心	-0.1389
5	現実	0.4954	本当に	-0.1431	超える	0.3959	男性	-0.3592	開	0.5386	心	-0.2152	学歴	0.6442	辞	-0.1315
6	事業	0.4776	物議	-0.1278	進む	0.3795	作品	-0.3522	就職	0.4444	開	-0.2026	教育	0.5740	競争	-0.1287
7	行動	0.4757	読め	-0.1204	制度	0.3720	好き	-0.3319	悪い	0.4402	現象	-0.1871	英語	0.4663	辞	-0.1274
8	心	0.4426	好き	-0.1125	地域	0.3624	物議	-0.3239	空	0.3928	空間	-0.1787	残る	0.4560	物議	-0.1261
9	認識	0.4417	やる	-0.1095	全	0.3537	開	-0.2853	労働	0.3745	感覚	-0.1565	先生	0.4181	か	-0.1249
10	なる	0.4402	作品	-0.1073	政府	0.3441	死ぬ	-0.2734	悪い	0.3671	行動	-0.1600	高校	0.3999	政治家	-0.1215
11	現実	0.4353	聞く	-0.1059	政治	0.3361	死ぬ	-0.2702	大人	0.3647	父親	-0.1581	人	0.3934	行く	-0.1161
12	母	0.4211	政府	-0.1044	体制	0.3298	行く	-0.2695	組織	0.3567	子供達	-0.1587	子	0.3651	政府	-0.1087
13	家庭	0.3991	行く	-0.1028	対応	0.3254	進む	-0.2240	開	0.3379	声	-0.1565	親	0.3547	呼ぶ	-0.1070
14	表明	0.3982	権力	-0.0973	新しい	0.3185	表現	-0.2129	大学	0.3303	母親	-0.1555	大学	0.3218	行く	-0.1068
15	地域	0.3924	国民	-0.0950	国民	0.3107	示える	-0.2120	高校	0.3291	説明	-0.1530	対応	0.3122	手	-0.1031
16	違い	0.3879	家	-0.0923	政治家	0.2980	気持ち	-0.2108	成功	0.3249	他者	-0.1535	身	0.3105	言う	-0.0998
17	影響	0.3825	言う	-0.0897	行	0.2934	選ぶ	-0.2106	評価	0.2646	次	-0.1494	事件	0.3000	インターネット	-0.0983
18	教育	0.3725	自分たち	-0.0879	技術	0.2887	母親	-0.2095	選ぶ	0.3202	地	-0.1471	自由	0.2575	国	-0.0980
19	環境	0.3715	現場	-0.0874	参加	0.2874	父親	-0.2013	やる	0.3136	自ら	-0.1451	つける	0.2529	中国	-0.0949
20	示	0.3639	事件	-0.0850	活動	0.2731	気	-0.2005	経験	0.3104	歴史	-0.1442	受ける	0.2513	いたらず	-0.0916
因子09[国家論的傾向]				因子10[時事評論的傾向]				因子11[世代論的傾向]				因子12[計算分析的傾向]				
順位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	単語	得点	下位	
1	国	0.5209	開	-0.4014	登場	0.5577	責任	-0.2644	力	0.3853	批判	-0.3024	強い	0.5692	行為	-0.2824
2	歴史	0.5241	インターネット	-0.3621	以降	0.5399	俺者	-0.2595	在る	0.3767	議論	-0.2787	傾向	0.4189	補給	-0.2625
3	国民	0.4818	紹介	-0.3522	知まる	0.5312	個人	-0.2577	失	0.3716	意見	-0.2498	お筆	0.3853	変える	-0.2606
4	日本人	0.4679	ネット	-0.3291	当時	0.4756	判断	-0.2523	案	0.3586	物	-0.2071	特徴	0.3724	家	-0.2527
5	国家	0.4642	メディア	-0.3194	中心	0.4670	自己	-0.2170	組織	0.3499	研究	-0.1832	高い	0.3446	組織	-0.2495
6	戦争	0.4259	インターネット	-0.2891	行く	0.4525	開	-0.2091	声	0.3442	言葉	-0.1822	おける	0.3219	行	-0.2445
7	アメリカ	0.4250	インターネット	-0.2888	生まれる	0.4175	始める	-0.1959	身	0.3204	管理	-0.1756	開	0.2976	開	-0.2172
8	アメリカ	0.4220	インターネット	-0.2425	行く	0.3951	欠	-0.1900	世代	0.3030	紹介	-0.1742	開	0.2464	残る	-0.2295
9	組織	0.4021	開	-0.2422	高い	0.3916	個人	-0.1778	時代	0.3023	発表	-0.1712	高い	0.2424	開	-0.2274
10	報道	0.3957	補給	-0.2240	出す	0.3777	開	-0.1729	得る	0.2968	出す	-0.1655	出す	0.2277	来る	-0.2214
11	なる	0.3361	分析	-0.1285	物議	0.3729	社会的	-0.1624	現象	0.2834	ひとつ	-0.1641	大きい	0.2218	やる	-0.2151
12	本	0.3304	メディア	-0.2111	文化	0.3632	努力	-0.1527	つながる	0.2761	主義	-0.1625	分析	0.2088	開	-0.2034
13	現象	0.3193	商品	-0.2065	その他	0.3279	行為	-0.1502	定まれる	0.2664	一般	-0.1622	学々	0.2040	やる	-0.1990
14	世紀	0.2925	開	-0.1899	時期	0.3262	気	-0.1468	時間	0.2528	内容	-0.1611	補給	0.1990	変える	-0.1918
15	めぐる	0.2900	つながる	-0.1886	変わる	0.2978	現象	-0.1442	技術	0.2519	身	-0.1580	非常	0.1988	行く	-0.1902
16	守る	0.2887	呼ぶ	-0.1847	変化	0.2872	高い	-0.1395	大人	0.2484	反対	-0.1507	よる	0.1917	影響	-0.1900
17	価値	0.2857	ひとつ	-0.1734	変く	0.2863	仕事	-0.1221	心	0.2431	本書	-0.1454	全体	0.1892	開	-0.1819
18	経済	0.2833	期待	-0.1650	残る	0.2819	不安	-0.1170	感じる	0.2406	読む	-0.1455	感覚	0.1883	起こる	-0.1798
19	自由	0.2731	内容	-0.1628	東京	0.2818	気持ち	-0.1149	ある	0.2403	教育	-0.1440	結果	0.1807	か	-0.1757
20	正しい	0.2653	事件	-0.1607	行	0.2755	身	-0.1147	私たち	0.2392	正しい	-0.1426	感情	0.1793	戦争	-0.1746

4. 因子分析

また、分析に用いる 1771 単語の内、1 冊の書籍の中での出現頻度が 20 以上である書籍が 200 以下 35 以上である単語 303 単語を抽出し、その 100 文ごとの出現頻度をデータとして、因子分析を行った。因子分析とは、データの背景にある指標を探るための統計的手法である。

多次元尺度構成法を用いたカテゴリー別の単語の集計結果とは異なり、因子分析は、書籍の取り扱っているトピックよりも態度を示した。なお、因子分析では、それぞれの因子負荷量が高いもののみに注目して名前を付けている。例えば、因子 2 は「情緒的傾向」の高さと

新テキストマイニングレポート Vol.1 間違いだらけの論客選び Revenge

因子01

上位	書名	使用率	下位	書名	使用率
1	鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』	4.7463	1	和田秀樹『私の保守宣言』	-1.5309
2	鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義』	3.4077	2	デュラン・れい子『一度も植民地にならなかった日本』	-1.4482
3	櫻村愛子『ネオリベラリズムの精神分析』	3.2983	3	寿輪研『動き始めた教育改革』	-1.4304
4	東浩紀『動物化するポストモダン』	3.1757	4	角川いつか『「昭和の男」がなくなる日』	-1.4115
5	柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育』	3.1694	5	税所篤快『ゆとり世代の愛国心』	-1.2264

因子02

上位		下位			
1	香山リカ『就職がこわい』	3.1452	1	宇野常寛『母性のディストピア』	-2.0346
2	香山リカ『仕事でだけ『うつ病』になる人たち』	2.8970	2	正村公宏『成熟社会への選択』	-2.0330
3	香山リカ『いまどきの『常識』』	2.7490	3	羽谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』	-1.9837
4	香山リカ『悪いのは私じゃない症候群』	2.6871	4	岩木秀夫『ゆとり教育から個性浪費社会へ』	-1.9168
5	香山リカ『生きづらい（私）たち』	2.6659	5	本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』	-1.8851

因子03

上位		下位			
1	山崎雅弘『戦前回帰』	3.4294	1	見田宗介『現代社会はどこに向かうか』	-2.0101
2	櫻井よしこ『困難に克つ 論戦2011』	3.2034	2	pha『ニートの歩き方』	-1.7808
3	白井聡『永続敗戦論』	2.9703	3	三浦展『第四の消費』	-1.7139
4	櫻井よしこ『この国をなぜ愛せないのか 論戦2006』	2.8893	4	野田正彰『この社会の歪みについて』	-1.5971
5	櫻井よしこ『いまこそ国益を問え 論戦2008』	2.8244	5	岩間夏樹『若者の働く意識はなぜ変わったのか』	-1.5510

因子04

上位		下位			
1	山田昌弘『少子社会日本』	5.8668	1	東浩紀『動物化するポストモダン』	-1.5296
2	山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』	5.6672	2	梅田望夫『ウェブ進化論』	-1.3951
3	山田昌弘『結婚の社会学』	5.1341	3	毛利嘉孝『ストリームの思想』	-1.2234
4	山田昌弘『新平等社会』	4.9724	4	宇野常寛『リトル・ビープルの時代』	-1.1992
5	山田昌弘『家族難民』	4.4116	5	東浩紀『一般意思2.0』	-1.1480

因子05

上位		下位			
1	門脇厚司『社会力を育てる』	8.3668	1	柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育』	-1.6743
2	門脇厚司『子どもの社会力』	7.7999	2	河上亮一『学校崩壊』	-1.5364
3	本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』	6.4546	3	諏訪哲二『オレ様化する子どもたち』	-1.4989
4	羽谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』	4.7254	4	雨宮処凛『ロスジェネはこう生きてきた』	-1.1345
5	安西祐一郎『「デジタル脳」が日本を救う』	2.3946	5	宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	-1.1303

因子06

上位		下位			
1	安西祐一郎『「デジタル脳」が日本を救う』	2.6500	1	兵頭新児『ぼくたちの女災社会』	-3.0642
2	正村公宏『成熟社会への選択』	2.6358	2	宇野常寛『母性のディストピア』	-2.7778
3	立木信『この国の経済常識はウソばかり』	2.6320	3	宇野常寛『ゼロ年代の想像力』	-2.7759
4	柳原英貴『日本は没落する』	2.3720	4	雨宮処凛『なぜフェミニズムは没落したのか』	-2.7656
5	木下ちや『ポピュリズムと「民意」の政治学』	2.3647	5	上野千鶴子『女ざらい』	-2.7352

したが、上位5冊はすべて香山リカであった。

5. コサイン類似度

書籍の間の「距離」を計る指標として、類似度の指標であるコサイン類似度を使用した。コサイン類似度は2つのデータをベクトルとして捉えてその確度から類似度を見る指標であり、-1から1までの値をとる。高ければ高いほど2つのデータは類似していると言える（コサイン0度は1となるため）。データは分析に用いた1771単語の100文あたりの出現度を用いた。そのため、コサイン類似度の高い書籍は、近いトピックを取り扱っている書籍ということができる。

6. 今後の課題

本書では、上記の視点から書籍を分析しているが、例えばフェミニズム系の書籍と反フェミニズムの書籍が本書で計算したコサイン類似度において近い位置に位置してしまうなど、本書の意図と反した分析結果が現れることもあった。今後も書籍数を増やすとともに、分析手法を変えて分析を継続していきたい。

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

因子07

上位			下位		
1	ちまりん『未来の働き方を考えよう』	4.8394	1	門脇厚司『子どもの社会力』	-3.2871
2	メアリー・C・プリントン『失われた場所を探して』	4.4275	2	鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	-2.1164
3	玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安』	4.1262	3	鈴木弘輝『生きる希望を忘れた若者たち』	-1.6281
4	玄田有史『働く過剰』	3.9672	4	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	-1.6133
5	香山リカ『就職がこわい』	3.0294	5	岩村暢子『日本人には二種類いる』	-1.4801

因子08

上位			下位		
1	柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育』	7.4009	1	勝間和代『会社に人生を預けるな』	-1.0731
2	河上亮一『学校崩壊』	7.0732	2	鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	-1.0679
3	諏訪哲二『オレ様化する子どもたち』	6.5919	3	梅田望夫『ウェブ進化論』	-1.0588
4	寺脇研『何処へ向かう教育改革』	4.7056	4	東浩紀『一般意思2.0』	-0.9811
5	尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』	3.9785	5	高原基彰『不安型テクノロジーの時代』	-0.9498

因子09

上位			下位		
1	山崎雅弘『戦前回廊』	4.7490	1	鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ』	-3.3636
2	中西隆政『国民の文明史』	3.1446	2	鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』	-3.2266
3	菱尚中『愛国の作法』	2.8540	3	中川淳一郎『ウェブはバカと職人のもの』	-2.5925
4	鈴木孝夫『日本の感性が世界を変える』	2.7752	4	佐々木俊高『ブログ論壇の誕生』	-2.1695
5	藤本一勇『批判感覚の再生』	2.6674	5	中川淳一郎『ウェブを炎上させるイタイ人たち』	-2.1424

因子10

上位			下位		
1	岩村暢子『日本人には二種類いる』	6.4268	1	森真一『自己コントロールの権』	-2.6358
2	前島賢『セカイ系とは何か』	3.7103	2	宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』	-2.1443
3	毛利嘉孝『ストリームの思想』	3.6244	3	堀有伸『日本のナルシズムの罪』	-2.0486
4	東浩紀『動物化するポストモダン』	3.0505	4	小原信『iモード社会の「われとわれわれ」』	-2.0411
5	速水健朗『ケータイ小説的。』	2.8234	5	速水敏彦『他人を見下す若者たち』	-1.8558

因子11

上位			下位		
1	安西祐一郎『「デジタル脳」が日本を救う』	3.7445	1	河合剛彦『大衆教育社会のゆくえ』	-2.4658
2	酒井信『平成人（フラット・アダルト）』	3.5761	2	毛利嘉孝『ストリームの思想』	-2.4440
3	宇野常寛『母性のディストピア』	3.1770	3	小谷野敦『すばらしき愚民社会』	-2.3541
4	波頭亮『若者のリアル』	3.1636	4	広田照幸『愛国心のゆくえ』	-2.2060
5	熊代亨『ロスジェネ心理学』	2.5446	5	山田昌弘『結婚の社会学』	-2.2027

因子12

上位			下位		
1	速水敏彦『他人を見下す若者たち』	4.3432	1	門脇厚司『社会力を育てる』	-4.0029
2	本田由紀『多元化する「能力」と日本社会』	3.5745	2	門脇厚司『子どもの社会力』	-3.7115
3	河合剛彦『大衆教育社会のゆくえ』	2.9818	3	ちまりん『未来の働き方を考えよう』	-2.1966
4	和辻秀樹『シンフレ日本人』	2.5757	4	pha『ニートの歩き方』	-2.1215
5	土井隆義『友だち地獄』	2.4791	5	宇野常寛『母性のディストピア』	-1.9753

7. 参考文献

樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析（第2版）：内容分析の発展と継承と発展を目指して / KH Coder オフィシャルブック』ナカニシヤ出版、2020年

金明哲『Rによるデータサイエンス（第2版）：データ分析の基礎から最新手法まで』森北出版、2017年

後藤和智『Text Mining Maniax（増補版）：フリーソフトで始める日本語計量テキスト分析』後藤和智事務所 Offline、2021年（コミックマーケット99）

後藤和智『Text Mining Maniax for Python：Pythonによる日本語計量テキスト分析の基礎』後藤和智事務所 Offline、2022年（コミックマーケット101）

分析結果

分析書籍一覧（掲載順）

※ 1 ページに 3 冊掲載しています。

- 宮本政於『お役所の掟：ぶっとび「霞が関」事情』講談社、1993 年
正村公宏『成熟社会への選択：新しい政治経済を求めて』NHK ブックス、1994 年
和田秀樹『シゾフレ日本人：若者たちを蝕む"自分がない"症候群』ロングセラーズ、1994 年
刈谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ：学歴主義と平等神話の戦後史』中公新書、1995 年
宮台真司『終わりなき日常を生きる：オウム完全克服マニュアル』筑摩書房、1995 年
野口悠紀雄『1940 年体制：さらば戦時経済』東洋経済新報社、1995 年
岡田斗司夫『ぼくたちの洗脳社会』朝日新聞社、1995 年
林道義『父性の復権』中公新書、1996 年
宮崎哲弥『正義の見方』洋泉社、1996 年
大澤真幸『虚構の時代の果て：オウムと世界最終戦争』筑摩書房、1996 年
山田昌弘『結婚の社会学：未婚化・晩婚化はつづくのか』丸善ライブラリー、1996 年
加藤典洋『敗戦後論』筑摩書房、1997 年
宮台真司『まぼろしの郊外：成熟社会を生きる若者たちの行方』朝日新聞社、1997 年
寺脇研『動き始めた教育改革：教育が変われば日本が変わる！』主婦の友社、1997 年
藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？：少女マンガが映す心のかたち』学陽書房、1998 年
櫻井よしこ『日本の危機』新潮社、1998 年
寺脇研『何処へ向かう教育改革：「どうなる学校」の疑問に全回答』主婦の友社、1998 年
門脇厚司『子どもの社会力』岩波新書、1999 年
河上亮一『学校崩壊』草思社、1999 年
香山リカ『ココロに向かって耳をすまそう』ハヤカワ文庫、1999 年
森嶋通夫『日本はなぜ没落するか』岩波書店、1999 年
櫻井よしこ『論戦 1999』ダイヤモンド社、1999 年
和田秀樹『学力崩壊：「ゆとり教育」が子どもをダメにする』PHP 研究所、1999 年
山田昌弘『パラサイト・シングル』ちくま新書、1999 年
福田和也『余は如何にしてナショナリストとなりし乎』光文社、2000 年
森真一『自己コントロールの檻：感情マネジメント社会の現実』講談社選書メチエ、2000 年
西部邁『国民の道徳』産経新聞ニュースサービス、2000 年
尾木直樹『子どもの危機をどう見るか』岩波新書、2000 年
斎藤貴男『機会不平等』文藝春秋、2000 年
櫻井よしこ『論戦 2000』ダイヤモンド社、2000 年
佐藤俊樹『不平等社会日本：さよなら総中流』中公新書、2000 年
上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』太郎次郎社、2000 年
東浩紀『動物化するポストモダン：オタクから見た日本社会』講談社現代新書、2001 年
玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安：揺れる若年の現在』中央公論新社、2001 年
辺見庸『単独発言：99 年の反動からアフガン報復戦争まで』角川書店、2001 年

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

- 井上トシユキ『2ちゃんねる宣言：挑発するメディア』文藝春秋、2001年
三浦展『マイホームレス・チャイルド：今どきの若者を理解するための23の視点』クラブハウス、2001年
宮崎哲弥『憂国の方程式：日本、愛さぬでもなし』PHP研究所、2001年
櫻井よしこ『日本よ、なぜ動かない 論戦2001』ダイヤモンド社、2001年
佐野真一『東電OL症候群』新潮社、2001年
八木秀次『反「人権」宣言』ちくま新書、2001年
香山リカ『多重化するリアル：心と社会の解離論』廣済堂出版、2002年
香山リカ『若者の法則』岩波新書、2002年
香山リカ『ぷちなショナリズム症候群：若者たちのニッポン主義』中公新書ラクレ、2002年
永山彦三郎『現場から見た教育改革』ちくま新書、2002年
小原信『iモード社会の「われとわれわれ」：情報倫理学の試み』中公叢書、2002年
櫻井よしこ『変わるのは今しかない 論戦2002』ダイヤモンド社、2002年
勢古浩爾『まれに見るバカ』洋泉社新書y、2002年
波頭亮『若者のリアル』日本実業出版社、2003年
小浜逸郎『やっぱバカが増えている』洋泉社新書y、2003年
正高信男『ケータイを持ったサル：「人間らしさ」の崩壊』中公新書、2003年
森川嘉一郎『趣都の誕生：萌える都市アキハバラ』幻冬舎、2003年
森永卓郎『年収300万円時代を生き抜く経済学』光文社、2003年
長山靖生『若者はなぜ「決められない」か』ちくま新書、2003年
中西輝政『国民の文明史』産経新聞ニュースサービス、2003年
荷宮和子『若者はなぜ怒らなくなったのか：団塊と団塊ジュニアの溝』中公新書ラクレ、2003年
斎藤環『ひきこもり文化論』紀伊國屋書店、2003年
酒井順子『負け犬の遠吠え』講談社、2003年
櫻井よしこ『明日への道を拓け 論戦2003』ダイヤモンド社、2003年
青山繁晴『日本国民が決断する日：東京テロと血の世界再編のなかで』扶桑社、2004年
江原啓之『子どもが危ない！：スピリチュアル・カウンセラーからの警鐘』講談社、2004年
岩木秀夫『ゆとり教育から個性浪費社会へ』ちくま新書、2004年
香山リカ『〈私〉の愛国心』ちくま新書、2004年
香山リカ『生きづらい〈私〉たち：心に穴があいている』講談社現代新書、2004年
香山リカ『就職がこわい』講談社、2004年
小谷野敦『すばらしき愚民社会』新潮社、2004年
パオロ・マッツァリーノ『スタンダード 反社会学講座』イースト・プレス、2004年
三浦展『ファスト風土化する日本：郊外化とその病理』洋泉社新書y、2004年
荷宮和子『バリバリのハト派：女子供カルチャー反戦論』晶文社、2004年
荷宮和子『なぜフェミニズムは没落したのか』中公新書ラクレ、2004年
大塚英志『「おたく」の精神史』講談社現代新書、2004年
斎藤真男『安心のファシズム：支配されたがる人びと』岩波新書、2004年
櫻井よしこ『このまま滅ぶな、日本 論戦2004』ダイヤモンド社、2004年
山田昌弘『パラサイト社会のゆくえ：データで読み解く日本の家族』ちくま新書、2004年
山田昌弘『希望格差社会：「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』筑摩書房、2004年
藤原正彦『国家の品格』新潮新書、2005年
玄田有史『働く過剰：大人のための若者読本』NTT出版、2005年
広田照幸『《愛国心》のゆくえ：教育基本法改正という問題』世織書房、2005年
本田透『電波男』三オブックス、2005年
本田由紀『多元化する「能力」と日本社会：ハイパー・メリトクラシー化のなかで』NTT出版、

新テキストマイニングレポート Vol.1 間違いだらけの論客選び Revenge

2005 年

- 香山リカ『いまどきの〈常識〉』岩波新書、2005 年
香山リカ『〈雅子さま〉はあなたと一緒に泣いている』筑摩書房、2005 年
北田暁大『嗟う日本の「ナショナリズム」』NHK ブックス、2005 年
三浦展『下流社会：新たな階層集団の出現』光文社新書、2005 年
三浦展『「かまやつ女」の時代：女性格差社会の到来』牧野出版、2005 年
野田正彰『この社会の歪みについて：自閉する青年、疲弊する大人』ユビキタ・スタジオ、2005 年
岡田尊司『自己愛型社会：ナルシスの時代の終焉』平凡社新書、2005 年
櫻井よしこ『国、売りたいもうことなかれ 論戦 2005』ダイヤモンド社、2005 年
杉田俊介『フリーターにとって「自由」とは何か』人文書院、2005 年
杉山幸丸『進化しすぎた日本人』中公新書ラクレ、2005 年
鈴木謙介『カーニヴァル化する社会』講談社現代新書、2005 年
八木秀次『国民の思想』産経新聞ニュースサービス、2005 年
柳田邦男『壊れる日本人：ケータイ・ネット依存症への告別』新潮社、2005 年
坂東真理子『女性の品格』PHP 新書、2006 年
藤本一勇『批判感覚の再生：ポストモダン保守の呪縛に抗して』白澤社、2006 年
速水由紀子『「つながらり」という危うい快楽：格差のドアが閉じていく』筑摩書房、2006 年
速水敏彦『他人を見下す若者たち』講談社現代新書、2006 年
林秀彦『この国の終わり』成甲書房、2006 年
堀井憲一郎『若者殺しの時代』講談社現代新書、2006 年
石堂淑朗『「おやじ」の正論：平成餓鬼草子』PHP 研究所、2006 年
城繁幸『若者はなぜ 3 年で辞めるのか？：年功序列が奪う日本の未来』光文社新書、2006 年
姜尚中『愛国の作法』朝日新書、2006 年
香山リカ『貧乏クジ世代：この時代に生まれて損をした！？』PHP 新書、2006 年
香山リカ『テレビの罠：コイズミ現象を読みとく』ちくま新書、2006 年
小森陽一『心脳コントロール社会』ちくま新書、2006 年
今一生『下流上等：キレイな子が生む格差社会』学事出版、2006 年
マークス寿子『日本はなぜここまで壊れたのか』草思社、2006 年
中島義道『醜い日本の私』新潮選書、2006 年
尾木直樹『思春期の危機をどう見るか』岩波新書、2006 年
さだまさし『本気で言いたいことがある』新潮新書、2006 年
斎藤貴男『分断される日本』角川書店、2006 年
櫻井よしこ『この国をなぜ愛せないのか 論戦 2006』ダイヤモンド社、2006 年
杉浦由美子『腐女子化する世界：東池袋のオタク女子たち』中公新書ラクレ、2006 年
高原基彰『不安型ナショナリズムの時代：日韓中のネット世代が憎みあう本当の理由』洋泉社新書 y、
2006 年
梅田望夫『ウェブ進化論：本当の大変化はこれから始まる』ちくま新書、2006 年
山田昌弘『新平等社会：「希望格差」を超えて』文藝春秋、2006 年
相原博之『キャラ化するニッポン』講談社現代新書、2007 年
赤木智弘『若者を見殺しにする国』双風舎、2007 年
雨宮処凛『生きさせろ！：難民化する若者たち』太田出版、2007 年
朝日新聞『ロストジェネレーション』取材班『ロストジェネレーション：さまよう 2000 万人』朝日
新聞社、2007 年
麻生太郎『とてつもない日本』新潮新書、2007 年
デュラン・れい子『一度も植民地にならなかったことがない日本』講談社 + α 新書、2007 年
深澤真紀『平成男子凶鑑：リスペクト男子としらふ男子』日経 BP 社、2007 年

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

- 櫻村愛子『ネオリベラリズムの精神分析：なぜ伝統や文化が求められるのか』光文社新書、2007年
香山リカ『なぜ日本人は劣化したか』講談社現代新書、2007年
香山リカ『仕事中だけ《うつ病》になる人たち：30代うつ、甘えと自己愛の心理分析』講談社、2007年
酒井信『平成人（フラット・アダルト）』文春新書、2007年
榑原英資『日本は没落する』朝日新聞社、2007年
櫻井よしこ『日本よ、動き国となれ 論戦 2007』ダイヤモンド社、2007年
佐野真一『この国の品質』ビジネス社、2007年
佐藤優『国家論』NHK ブックス、2007年
諏訪哲二『オレ様化する子どもたち』中公新書ラクレ、2007年
田北百樹子『シュガー社員が会社を溶かす』ブックマン社、2007年
内田樹『下流志向：学ばない子どもたち 働かない若者たち』講談社、2007年
和田秀樹『和田秀樹の憲法改正論』原書房、2007年
山田昌弘『少子社会日本：もうひとつの格差のゆくえ』岩波新書、2007年
メアリー・C・プリントン『失われた場所を探して：ロストジェネレーションの社会学』NTT出版、2008年
土井隆義『友だち地獄：「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書、2008年
藤原智美『検索バカ』朝日新書、2008年
速水健朗『ケータイ小説的。：“再ヤンキー化”時代の少女たち』原書房、2008年
速水健朗『自分探しが止まらない』ソフトバンク新書、2008年
本田由紀『軋む社会：教育・仕事・若者の現在』双風舎、2008年
香山リカ『私は若者が嫌いだ！』ベスト新書、2008年
水無田気流『入山もこもこ、抜けたら荒野：デフレ時代の憂鬱と希望』光文社新書、2008年
三浦展『女はなぜキャバクラ嬢になりたいのか？：「承認されたい自分」の時代』光文社新書、2008年
中谷蔵『資本主義はなぜ自壊したのか：「日本」再生への提言』集英社インターナショナル、2008年
岡田斗司夫『オタクはすでに死んでいる』新潮新書、2008年
大澤真幸『不可能性の時代』岩波新書、2008年
櫻井よしこ『いまこそ国益を問え 論戦 2008』ダイヤモンド社、2008年
佐々木俊尚『ブログ論壇の誕生』文春新書、2008年
鈴木謙介『サブカル・ニッポンの新自由主義：既得権批判が若者を追い込む』ちくま新書、2008年
立木信『この国の経済常識はウソばかり』洋泉社新書 y、2008年
寺脇研『さらば ゆとり教育：学力崩壊の「戦犯」と呼ばれて』光文社ペーパーバック、2008年
柘植智幸『「ゆとり教育世代」の恐怖』PHP 研究所、2008年
宇野常寛『ゼロ年代の想像力』早川書房、2008年
渡辺幸一『恥と誇りを忘れた母国・日本へ！』河出書房新社、2008年
渡部昇一『知っておくべき日本人の底力』海竜社、2008年
雨宮処凛『ロスジェネはこう生きてきた』平凡社新書、2009年
堀江貴文『新・資本論：僕はお金の正体がわかった』宝島社新書、2009年
兵頭新児『ぼくたちの女災社会』二見書房、2009年
池田整治『マインドコントロール：日本人を騙し続ける支配者の真実』ビジネス社、2009年
勝間和代『会社に人生を預けるな：リスク・リテラシーを磨く』光文社新書、2009年
香山リカ『悪いのは私じゃない症候群』ベスト新書、2009年
水無田気流『無頼化する女たち』洋泉社新書 y、2009年
宮台真司『日本の難点』幻冬舎新書、2009年

新テキストマイニングレポート Vol.1 間違いだらけの論客選び Revenge

- 毛利嘉孝『ストリートの思想：転換期としての1990年代』NHKブックス、2009年
- 中川淳一郎『ウェブはバカと暇人のもの：現場からのネット敗北宣言』光文社新書、2009年
- 櫻井よしこ『櫻井よしこの憂国 論戦2009』ダイヤモンド社、2009年
- 寺脇研『バマス計算でバカになる：常識のウソを見抜く12講座』光文社ペーパーバック、2009年
- 内田樹『日本辺境論』新潮新書、2009年
- 山田昌弘『なぜ若者は保守化するのか：反転する現実と願望』東洋経済新報社、2009年
- 安西祐一郎『「デジタル脳」が日本を救う：21世紀の開国論』講談社、2010年
- 元田與市『ぼくらは現代社会でゼロ化する』双文社出版、2010年
- 原田曜平『近頃の若者はなぜダメなのか：携帯世代と「新村社会」』光文社新書、2010年
- 岩間夏樹『若者の働く意識はなぜ変わったのか：企業戦士からニートへ』ミネルヴァ書房、2010年
- 門脇厚司『社会力を育てる：新しい「学び」の構想』岩波新書、2010年
- 鏡裕之『非実在青少年論：オタクと資本主義』愛育社、2010年
- 片田珠美『一億総ガキ社会：「成熟拒否」という病』光文社新書、2010年
- 小浜逸郎『人はひとりで生きていけるか：「大衆個人主義」の時代』PHP研究所、2010年
- 前島賢『セカイ系とは何か』ソフトバンク新書、2010年
- 中川淳一郎『ウェブを炎上させるイタイ人たち：面妖なネット原理主義者の「いなし方」』宝島社新書、2010年
- NHK「無縁社会プロジェクト」取材班『無縁社会：“無縁死”三万二千人の衝撃』文藝春秋、2010年
- 蛭川真夫『ネットの炎上力』文春新書、2010年
- 楡周平『衆愚の時代』新潮新書、2010年
- 岡田憲治『言葉が足りないとサルになる：現代ニッポンと言語力』垂紀書房、2010年
- 櫻井よしこ『日本を愛すればこそ、警鐘を鳴らす 論戦2010』ダイヤモンド社、2010年
- 上野千鶴子『女ざらい：ニッポンのミソジニー』紀伊國屋書店、2010年
- 宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』岩波新書、2010年
- 牛窪恵『おゆとりさま消費：つながり・つっこみ・インパクト』アスキー・メディアワークス、2010年
- 和田秀樹『テレビの大罪』新潮新書、2010年
- 柳沼良太『ポストモダンの自由管理教育：スキゾ・キッズからマルチ・キッズへ』春風社、2010年
- 雨宮まみ『女子をこじらせて』ポット出版、2011年
- 東浩紀『一般意思2.0：ルソー、フロイト、グーグル』講談社、2011年
- ちきりん『自分のアタマで考えよう：知識にだまされない思考の技術』ダイヤモンド社、2011年
- 円堂都司昭『ゼロ年代の論点：ウェブ・郊外・カルチャー』ソフトバンク新書、2011年
- 福嶋麻衣子、いしたにまさき『日本の若者は不幸じゃない』ソフトバンク新書、2011年
- 古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社、2011年
- 角川いつか『「昭和の男」がなくなる日：イイ男は、みんなあの時代にいた！』主婦の友社新書、2011年
- 香山リカ『世の中の意見が〈私〉と違うときに読む本：自分らしく考える』幻冬舎新書、2011年
- 香山リカ『〈不安な時代〉の精神病理』講談社現代新書、2011年
- 香山リカ『3・11後の心を立て直す』ベスト新書、2011年
- 齋藤孝『日本人の心はなぜ強かったのか：精神バランス論』PHP新書、2011年
- 櫻井よしこ『国難に克つ 論戦2011』ダイヤモンド社、2011年
- 宇野常寛『リトル・ピープルの時代』幻冬舎、2011年
- 與那覇潤『中国化する日本：日中「文明の衝突」一千年史』文藝春秋、2011年
- 濱野智史『前田敦子はキリストを超えた：〈宗教〉としてのAKB48』ちくま新書、2012年

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

- 橋本努『ロス近代：資本主義の新たな駆動因』弘文堂、2012年
イケダハヤト『年収150万で僕らは自由に生きていく』星海社新書（講談社）、2012年
香山リカ『絆ストレス』青春新書 INTELLIGENCE、2012年
香山リカ『「独裁」入門』集英社新書、2012年
香山リカ『若者のホンネ：平成生まれは何を考えているのか』朝日新書、2012年
熊代亨『ロスジェネ心理学：生きづらいこの時代をひも解く』花伝社、2012年
久徳重和『人間形成障害』祥伝社新書、2012年
松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論：女の子たちの三十年戦争』原書房、2012年
三浦展『第四の消費：つながりを生み出す社会へ』朝日新書、2012年
小川榮太郎『約束の日：安倍晋三試論』幻冬舎、2012年
小熊英二『社会を変えるには』講談社現代新書、2012年
大堀ユリエ『昭和脳上司がゆとり世代部下を働かせる方法77』光文社、2012年
pha『ニートの歩き方：お金がなくても楽しく暮らすためのインターネット活用法』技術評論社、2012年
斎藤環『世界が土曜の夜の夢なら』角川書店、2012年
櫻井よしこ『甦れ、日本 論戦2012』ダイヤモンド社、2012年
佐々木俊尚『「当事者」の時代』光文社新書、2012年
鈴木弘輝『生きる希望を忘れた若者たち』講談社現代新書、2012年
橋玲『（日本人）』幻冬舎、2012年
橋玲『不愉快なことには理由がある』集英社、2012年
適菜収『日本をダメにしたB層の研究』講談社、2012年
寺脇研『「フクシマ後」の生き方は若者に聞け』主婦の友社、2012年
常見陽平『僕たちはガンダムのジムである』ヴィレッジブックス、2012年
渡辺恒雄『反ポピュリズム』新潮新書、2012年
安富歩『原発危機と東大話法：傍観者の論理・欺瞞の言語』明石書店、2012年
安倍晋三『新しい国へ：美しい国へ 完全版』文春新書、2013年
ちきりん『未来の動き方を考えよう：人生は二回、生きられる』文藝春秋、2013年
速水健朗『1995年』ちくま新書、2013年
堀井憲一郎『やさしさをまとった殲滅の時代』講談社現代新書、2013年
石川九楊『縦に書け！：横書きが日本人を壊している』祥伝社、2013年
岩村暢子『日本人には二種類いる：1960年の断層』新潮新書、2013年
藻谷浩介『里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く』角川 One テーマ21、2013年
小田嶋隆『ポエムに万歳！』新潮社、2013年
小川榮太郎『「永遠の0」と日本人』幻冬舎新書、2013年
佐伯啓思『日本の宿命』新潮新書、2013年
櫻井よしこ『櫻井よしこの日本再興 論戦2013』ダイヤモンド社、2013年
白井聡『永続敗戦論：戦後日本の核心』太田出版 at プラス叢書、2013年
鈴木謙介『ウェブ社会のゆくえ：〈多孔化〉した現実のなかで』NHK ブックス、2013年
高田明典『ネットが社会を破壊する』リーダーズノート、2013年
竹田恒泰『日本人はいつから日本が好きになったのか』PHP 新書、2013年
谷本真由美『日本が世界一「貧しい」国である件について』祥伝社、2013年
谷本真由美『日本に殺されず幸せに生きる方法』あさ出版、2013年
赤坂真理『愛と暴力の戦後とその後』講談社現代新書、2014年
古市憲寿『だから日本はズレている』新潮新書、2014年
原田曜平『ヤンキー経済：消費の主役・新保守層の正体』幻冬舎新書、2014年
橋本治『バカになったか、日本人』集英社、2014年

新テキストマイニングレポート Vol.1 間違いだらけの論客選び Revenge

- イケダハヤト『新世代努力論：「恵まれた世代」は判ってない。これがぼくらの価値観だ。』朝日新聞出版、2014年
- 伊藤春香『恋愛炎上主義。』ポプラ社、2014年
- 香山リカ『弱者はもう救われないのか』幻冬舎新書、2014年
- 香山リカ『ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか』朝日新書、2014年
- 香山リカ『劣化する日本人：自分のことしか考えられない人たち』ベスト新書、2014年
- 宮台真司『私たちはどこから来て、どこへ行くのか』幻冬舎、2014年
- 村上裕一『ネトウヨ化する日本：暴走する共感とネット時代の「新中間大衆」』角川 EPUB 叢書、2014年
- 難波功士『大二病：「評価」から逃げる若者たち』双葉新書、2014年
- 荻上チキ『未来をつくる権利：社会問題を読み解く6つの講義』NHK ブックス、2014年
- 税所篤快『ゆとり世代の愛国心：世界に出て、日本の奇跡が見えてきた』PHP 新書、2014年
- 櫻井よしこ『日本国の復権 論戦 2014』ダイヤモンド社、2014年
- さやわか『「〇年代文化論」』星海社新書（講談社）、2014年
- 白岩玄『R30の欲望スイッチ：欲しがらない若者の、本当の欲望』宣伝会議、2014年
- 想田和弘『熱狂なきファシズム：ニッポンの無関心を観察する』河出書房新社、2014年
- 鈴木孝夫『日本の感性が世界を変える：言語生態学的文明論』新潮選書、2014年
- 宇佐美典也『肩書き捨てたら地獄だった：挫折した元官僚が教える「頼れない」時代の働き方』中公新書ラクレ、2014年
- 渡邊博史『生ける屍の結末：「黒子のバスケ」脅迫事件の全真相』創出版、2014年
- 山田昌弘『家族難民：生涯未婚率 25% 社会の衝撃』朝日新聞出版、2014年
- 米田智彦『デジタルデトックスのすすめ』PHP エディターズ・グループ、2014年
- 春香クリスティーン『ナショナリズムをとことん考えてみたら』PHP 新書、2015年
- 藤本耕平『つくし世代：「新しい若者」の価値観を読む』光文社新書、2015年
- 古谷経衡『左翼も右翼もウソばかり』新潮新書、2015年
- 百田尚樹『大放言』新潮新書、2015年
- 井上達夫『リベラルのことは嫌いでも、リベラリズムは嫌いにならないでください：井上達夫の法哲学入門』毎日新聞出版、2015年
- 神奈川新聞取材班『時代の正体：権力はかくも暴走する』現代思潮新社、2015年
- 加藤典洋『戦後入門』ちくま新書、2015年
- 香山リカ『半知性主義でいこう：戦争ができる国の新しい生き方』朝日新書、2015年
- KAZUYA『超日本人の時代：お花畑からの脱却』アイパス出版、2015年
- 李信恵『#鶴橋安寧：アンチ・ヘイト・クロニクル』影書房、2015年
- 櫻井よしこ『戦後七〇年 国家の岐路 論戦 2015』ダイヤモンド社、2015年
- 佐々木俊尚『21世紀の自由論：「優しいリアリズム」の時代へ』NHK 出版新書、2015年
- 高橋源一郎『「ぼくらの民主主義なんだぜ」』朝日新書、2015年
- 武田砂鉄『紋切型社会：言葉で固まる現代を解きほぐす』朝日出版社、2015年
- 山崎雅弘『戦前回帰：「大日本病」の再発』学研教育出版、2015年
- 浅羽通明『「反戦・脱原発リベラル」はなぜ敗北するのか』ちくま新書、2016年
- ブレイディみかこ『THIS IS JAPAN：英国保育士が見た日本』太田出版、2016年
- 藤井厳喜『「国家」の逆襲：グローバリズム終焉に向かう世界』祥伝社新書、2016年
- 藤田孝典『貧困世代：社会の監獄に閉じ込められた若者たち』講談社現代新書、2016年
- 羽生雄毅『OTAKU エリート：2020年にはアキバカルチャーが世界のビジネス常識になる』講談社 + α 新書、2016年
- 平田オリザ『下り坂をそろそろと下りる』講談社現代新書、2016年
- 堀有伸『日本的ナルシズムの罪』新潮新書、2016年

「劣化言説の時代」を中心とする〈平成論壇〉要覧

- 香山リカ『リベラルですが、何か?』イースト新書、2016年
中川淳一郎『バカざんまい』新潮新書、2016年
奥田愛基『変える』河出書房新社、2016年
ロマン優光『間違ったサブカルで「マウンティング」してくるすべてのクズどもに』コア新書、2016年
Rootport『失敗すれば即終了!日本の若者がとるべき生存戦略』晶文社、2016年
櫻井よしこ『凍たる国家へ日本よ、決意せよ 論戦2016』ダイヤモンド社、2016年
杉田俊介『非モテの品格:男にとって「弱さ」とは何か』集英社新書、2016年
橘玲『言ってはいけない:残酷すぎる真実』新潮新書、2016年
田中英道『日本人が知らない日本の道徳』ビジネス社、2016年
和田秀樹『この国の冷たさの正体:一億総「自己責任」時代を生き抜く』朝日新書、2016年
東浩紀『ゲンロン0 観光客の哲学』ゲンロン、2017年
ケント・ギルバート『儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇』講談社+α新書、2017年
金村詩恩『私のエッジから観ている風景:在日コリアンで』ぶなのもり、2017年
木下ちがや『ポピュリズムと「民意」の政治学:3・11後の民主主義』大月書店、2017年
牧村朝子『ハッピーエンドに殺されない』青弓社、2017年
永田夏来『生涯未婚時代』イースト新書、2017年
西部邁『保守の真髄:老酔狂で語る文明の紊乱』講談社現代新書、2017年
西田亮介『不寛容の本質:なぜ若者を理解できないのか、なぜ年長者を許せないのか』経済界新書、2017年
櫻井よしこ『頼るな、備えよ 論戦2017』ダイヤモンド社、2017年
佐藤芳直『なぜ世界は日本化するのか』育鵬社、2017年
高村薫『作家的覚書』岩波新書、2017年
寺脇研『教育の国家支配がすすむ:〈ミスター文部省〉に見えること』青幻社、2017年
宇野常寛『母性のディストピア』集英社、2017年
和田秀樹『私の保守宣言』ワック、2017年
山口真由『リベラルという病』新潮新書、2017年
柳美里『国家への道順』河出書房新社、2017年
新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社、2018年
カレー沢薫『女って何だ?』キノブックス、2018年
藤野英人『さらば、GG資本主義:投資家が日本の未来を信じている理由』光文社新書、2018年
堀越英美『不道徳お母さん講座:私たちはなぜ母性と自己犠牲に感動するのか』大和書房、2018年
石原慎太郎『日本よ、完全自立を』文春新書、2018年
片山社秀『平成精神史:天皇・災害・ナショナリズム』幻冬舎新書、2018年
香山リカ『「発達障害」と言いたがる人たち』SB新書、2018年
見田宗介『現代社会はどこに向かうか:高原の見晴らしを切り開くこと』岩波新書、2018年
御田寺圭『矛盾社会序説』イースト・プレス、2018年
野間易通『実録・レイシストをしばき隊』河出書房新社、2018年
小川たまか『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』タバブックス、2018年
斎藤貴男『日本が壊れていく:幼稚な政治、ウソまみれの国』ちくま新書、2018年

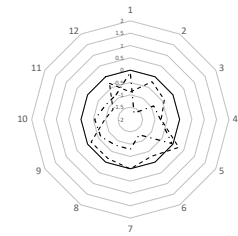
宮本政次

お役所の掟

ぶつとび「霞が関」事情

講談社 / 1993年

単語数68,227 / 文の数3,409



単語	100文頻度
霞う	8.4482
講う	5.8375
日本	4.2828
霞分	4.1361
心志	4.1361
霞事	3.7548
人	3.1388
組織	3.0507
いる	3.0214
いう	2.8161
因子分析使用単語	
仕事	3.7548
距離	3.0507
行く	2.1414
聞く	1.9947
取る	1.9947
入る	1.8480
個人	1.7600
ひとつ	1.7600
日本人	1.5547
日本	1.4960

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
カテゴリ1	57.4069	182	49.1022
カテゴリ2	57.9349	307	32.9662
カテゴリ3	8.2722	273	40.9394
カテゴリ4	13.3470	248	42.2142
カテゴリ5	18.8925	153	49.4955
カテゴリ6	8.1842	309	37.7168
カテゴリ7	11.7923	259	42.1329
カテゴリ8	4.6641	278	42.0218
カテゴリ9	7.8615	216	43.8711
カテゴリ10	9.5923	223	44.4309
カテゴリ11	3.6668	301	41.5914
カテゴリ12	8.5362	265	41.5256

因子	得点	順位
因子1	-0.8854	288
因子2	-0.2316	179
因子3	-0.4079	202
因子4	-0.7476	290
因子5	0.2673	63
因子6	-0.2749	226
因子7	0.0052	119
因子8	-0.1771	145
因子9	-0.1640	181
因子10	-0.9685	304
因子11	-1.1902	305
因子12	-0.3093	221

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 白田陽輔「大政見」	0.7767
2 中山隆一編「リカゾンまい」	0.7635
3 赤坂隆興「霞が関の権威とその後」	0.7542
4 香山リカ「リカゾンでござい、宿か?」	0.7466
5 寺島隆「百マス計算でリカになる」	0.7419

1990年代の「お役所」事情を官僚の立場から赤裸々に暴露した書籍。ただし、内容としては「放言」系の書籍に近くなっている。

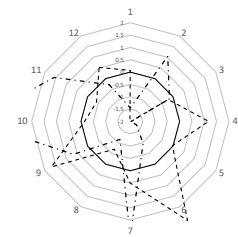
正村公宏

成熟社会への選択

新しい政治経済を求めて

NHKブックス / 1994年

単語数67,268 / 文の数2,090



単語	100文頻度
日本	17.1292
増加	11.0526
できる	8.9952
必要	8.2297
国民	8.1818
人口	7.0335
政府	6.7464
社会	6.1244
成長	5.3110
経済政策	5.0718
因子分析使用単語	
国民	8.1818
政府	6.7464
政策	4.7847
生活	4.6411
経済	4.4019
アメリカ	4.3541
大きい	4.1148
むつ	3.7799
制度	3.0622
政治	2.8230

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
カテゴリ1	41.0048	300	35.4968
カテゴリ2	84.1148	50	60.3735
カテゴリ3	12.5837	166	48.3434
カテゴリ4	4.2584	329	30.2565
カテゴリ5	5.0239	329	32.9328
カテゴリ6	10.4306	272	40.3642
カテゴリ7	43.2536	8	76.8900
カテゴリ8	2.4402	327	38.4283
カテゴリ9	19.3780	73	56.6548
カテゴリ10	53.5384	1	93.3331
カテゴリ11	25.6459	24	65.6692
カテゴリ12	12.8230	177	47.1855

因子	得点	順位
因子1	0.0717	121
因子2	-2.0330	329
因子3	-1.2256	170
因子4	1.1777	23
因子5	-0.0312	128
因子6	2.6358	2
因子7	0.5028	66
因子8	-0.7000	317
因子9	1.6929	21
因子10	-0.1467	164
因子11	-0.4174	226
因子12	0.5255	69

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 安徳昌三「新しい国へ」	0.6554
2 戦川隆雄「1940年体制」	0.6344
3 榊原英吉「日本は没落する」	0.6104
4 中谷隆「資本主義はなぜ自壊したのか」	0.6075
5 立木隆「この国の経済政策はワザばかり」	0.6030

1990年代初頭に「成熟社会」について論じた書籍。後に「成熟社会」について発言する宮台真司やその流れを汲む書籍よりも経済系の書籍のほうが類似度が高い。

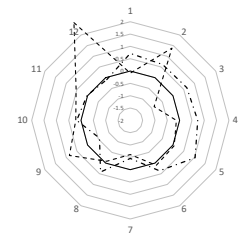
和田秀樹

シゾフレ日本人

若者たちを蝕む「自分がない」症候群

ロンソレーズ / 1994年

単語数76,895 / 文の数2,403



単語	100文頻度
人間	17.5198
自分	8.1023
いう	7.1134
い	8.9888
見える	8.3645
語る	6.9496
時代	6.8248
世界	5.9093
できる	5.7844
いる	4.8273
因子分析使用単語	
むつ	4.4112
強い	4.3279
若者	4.3279
アメリカ	4.1199
日本人	3.9534
求める	3.4540
不安	3.2459
子供	3.0795
いえる	2.9546
書	2.4553

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
カテゴリ1	67.1284	94	57.1628
カテゴリ2	80.1082	95	56.1790
カテゴリ3	17.3117	70	66.4725
カテゴリ4	24.8439	75	57.3405
カテゴリ5	27.8818	45	60.3496
カテゴリ6	19.7670	101	53.6113
カテゴリ7	14.7732	213	45.4260
カテゴリ8	12.1931	71	54.1874
カテゴリ9	8.3645	204	44.4294
カテゴリ10	16.1881	108	51.7543
カテゴリ11	11.5689	108	50.2480
カテゴリ12	14.2738	154	49.1011

因子	得点	順位
因子1	-0.0829	141
因子2	1.3798	37
因子3	-0.8831	280
因子4	-0.1325	148
因子5	0.0583	104
因子6	0.1047	156
因子7	-0.6131	265
因子8	-0.0847	113
因子9	0.8521	49
因子10	0.2130	106
因子11	0.5404	79
因子12	2.5757	4

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 香山リカ「確証ゼロの世」	0.6851
2 香山リカ「不安な時代の精神病理」	0.6524
3 香山リカ「多難化するリアリ」	0.6496
4 香山リカ「生きづらい(魂)たち」	0.6490
5 香山リカ「劣化する日本人」	0.6433

※片中文庫版「自分がない症候群」の語彙を使用

著者が若者論や社会評論に積極的に顔を出すようになった嚆矢の本。類似度の高い書籍がすべて香山リカの若者論となっており、心理主義的若者論の点でも嚆矢。

単語カテゴリの説明……カテゴリ1…一般的なものの、カテゴリ2…社会評論的な単語、カテゴリ3…コミュニケーション、カテゴリ4…いわゆる若者文化、カテゴリ5…エッセイ・愚痴的な単語、カテゴリ6…犯罪・社会問題、カテゴリ7…政治思想、カテゴリ8…メディアカルチャー、カテゴリ9…政治、カテゴリ10…教育・経済、カテゴリ11…ロジエネ論的な単語、カテゴリ12…社会思想・哲学

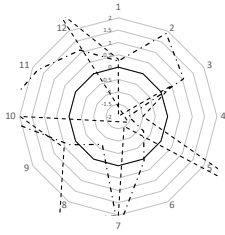
刈谷剛彦

大衆教育社会のゆくえ

学歴主義と平等神話の戦後史

中公新書 / 1995年

単語数69,741 / 文の数2,056



単語	100文検定
単語	40,321.0
教育	40,321.0
社会	18,531.1
学歴	13,132.3
階級	12,306.9
能力	11,916.3
階級	11,673.2
階級	9,387.2
階級	9,095.3
階級	7,733.5
日本	7,587.5
因子分析使用単語	40,321.0
能力	11,916.3
学校	9,387.2
階級	7,733.5
庄俊	6,177.0
行なう	5,447.9
階級	5,301.6
階級	4,863.8
文化	4,863.8
階級	4,766.5

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
1	61.4786	150	52.4796
2	92.2179	4	68.8565
3	19.6984	42	60.5777
4	7.2471	325	34.8886
5	12.4514	265	41.8417
6	17.8502	140	50.917
7	42.0720	11	75.5846
8	5.3016	253	43.0518
9	16.0019	108	52.9072
10	40.8074	7	79.0891
11	27.5292	19	67.7323
12	23.3463	46	61.0796

因子	得点	順位
1	0.3215	97
2	-1.9837	328
3	0.5312	71
4	-1.0035	320
5	4.7254	4
6	-1.5360	311
7	2.0332	15
8	2.7675	7
9	0.5375	69
10	1.9843	16
11	-2.4658	330
12	2.9818	3

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文検定)	コサイン類似度
1 広田照幸『(復讐心)のゆくえ』	0.6682
2 杉本秀夫『時より教育から個性教育社会へ』	0.6451
3 戸嶋孝博『財力力を奪取る』	0.5923
4 柳井隆『階級の階級を逆転させる』	0.5894
5 半田田記『多元化する「階級」と日本社会』	0.5499

我が国における教育格差に関して述べた初期の書籍。ただ、類似度が高いのは後の格差社会論よりもリベラル寄りの教育論であった。

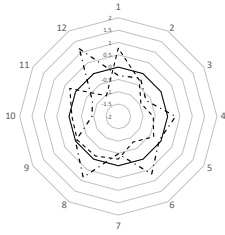
宮台真司

終わりなき日常を生きる

オウム完全克服マニュアル

筑摩書房 / 1995年

単語数47,500 / 文の数1,727



単語	100文検定
単語	6,543.1
社会	6,236.6
オウム	6,022.0
私たち	5,964.1
日常	5,848.3
生きる	5,588.8
宗教	5,500.9
できる	5,153.4
終わる	5,095.5
世帯	4,863.9
因子分析使用単語	6,022.0
私たち	5,588.8
生きる	5,588.8
終わる	5,095.5
世帯	4,574.4
良い	3,416.3
分かる	2,316.2
一つ	2,200.3
システム	2,084.5
見える	1,968.7
実態	1,679.2

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
1	54.3717	201	46.5846
2	72.2061	203	47.9065
3	9.4383	237	42.9346
4	21.7140	117	53.2224
5	18.5871	158	49.2012
6	22.1772	62	57.0311
7	14.5339	219	45.1616
8	14.8813	48	58.5311
9	13.4337	134	50.0564
10	6.2536	283	40.7340
11	4.1112	291	42.0782
12	23.7985	41	61.6767

因子	得点	順位
1	0.7680	54
2	-0.3012	191
3	-0.9431	297
4	-0.5838	262
5	-0.3442	235
6	-0.7989	279
7	-0.2682	180
8	-0.1493	134
9	-0.0766	160
10	-0.1178	155
11	0.2727	106
12	-1.0365	295

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文検定)	コサイン類似度
1 宮台真司『まぼろしの郊外』	0.6894
2 宮崎裕『集団の方程式』	0.6818
3 宮崎裕『正義の呪力』	0.6600
4 宮台真司『日本の真実』	0.6551
5 宮台真司『私たちはどこから来て、どこへ行くのか』	0.6367

※ちくま文庫版を使用

「オウム完全克服マニュアル」を謳った、若い世代に憑依して(楯にして、とも言う)社会を語った本。これと『まぼろしの郊外』『世紀末の作法』があれば宮台は読む必要なし。

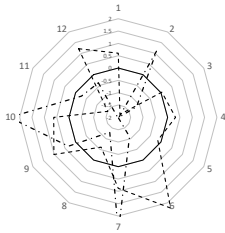
野口悠紀雄

1940年体制

さらば戦時経済

東洋経済新報社 / 1995年

単語数63,501 / 文の数2,496



単語	100文検定
単語	7,572.1
日本	6,971.2
戦後	6,650.6
制度	6,456.4
制度	5,528.8
戦後	5,168.3
政策	4,567.3
行う	4,487.2
世界	4,407.1
いう	4,286.9
問題	4,166.7
因子分析使用単語	6,971.2
企業	6,971.2
体制	6,650.6
制度	5,528.8
戦後	5,168.3
制度	4,567.3
行う	4,487.2
話べる	4,166.7
現在	4,006.4
改善	3,445.5
経済	3,285.3

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
1	33.8141	329	79.5322
2	84.7756	46	61.0653
3	6.8910	305	38.5543
4	4.2067	330	30.1885
5	2.4840	330	29.8863
6	9.4952	291	39.0370
7	43.0288	9	76.6417
8	1.5224	329	36.9454
9	16.4263	104	53.3783
10	36.3381	12	74.1269
11	8.8141	162	47.2302
12	12.0593	191	46.1772

因子	得点	順位
1	0.5999	66
2	-1.8613	324
3	0.0288	315
4	0.3212	72
5	-0.1507	165
6	2.2466	6
7	0.8765	47
8	-0.6039	308
9	0.1067	42
10	0.6188	57
11	-1.5107	318
12	1.2138	27

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文検定)	コサイン類似度
1 正村公彦『階級社会への過渡』	0.6344
2 柳井隆『日本はなぜ貧乏する』	0.6040
3 教育費増『機会不平等』	0.5686
4 加藤典洋『階級入門』	0.5623
5 高橋和典『不安定なシオナリズムの時代』	0.5601

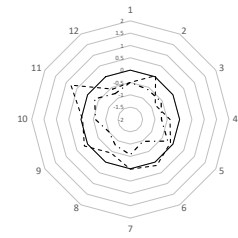
当時の我が国の経済体制が「戦時経済」のもとにあるとした本。近い書籍は経済よりも歴史入りの社会学のほうが多い。

因子の説明……因子1…認識論的傾向、因子2…情緒的傾向、因子3…政治論的傾向、因子4…家族論的傾向、因子5…行動学的傾向、因子6…社会経済的傾向、因子7…労働経済論的傾向、因子8…教育論的傾向、因子9…国家論的傾向、因子10…時事評論的傾向、因子11…世代論的傾向、因子12…計量分析的傾向

岡田斗司夫 ぼくたちの洗脳社会

朝日新聞社 / 1995年

単語数65,640 / 文の数3,472



単語	100文頻度
単語	100文頻度
自分	7.6325
社会	6.1060
情報戦	5.3859
人	5.2319
地上	5.0691
劣る	4.9539
科学	4.1187
いう	3.6290
できる	3.2546
少	3.2258
因子分析使用単語	
情報戦	5.3859
私	5.0691
人々	3.0530
変化	2.9090
イメージ	2.2753
本	1.8721
読者	1.6993
問題	1.6129
現在	1.5265
分かる	1.5265

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
カテゴリー1	52.5058	219	45.0368
カテゴリー2	68.5484	241	44.0773
カテゴリー3	10.3111	216	44.4354
カテゴリー4	13.6809	241	42.6534
カテゴリー5	17.1947	178	47.5130
カテゴリー6	10.3399	273	40.2354
カテゴリー7	13.7673	227	44.3147
カテゴリー8	4.6947	275	42.0713
カテゴリー9	4.4067	300	40.0360
カテゴリー10	9.3606	229	44.1737
カテゴリー11	8.2949	168	46.6614
カテゴリー12	9.0150	251	42.1577

因子	得点	順位
因子1	-0.4971	208
因子2	0.0511	128
因子3	-0.8300	280
因子4	-0.3890	211
因子5	-0.1188	148
因子6	0.1504	146
因子7	0.0177	113
因子8	-0.4337	246
因子9	0.1531	112
因子10	-0.0632	145
因子11	0.8760	58
因子12	-0.7807	264

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 香山リカ「読者はもう寝れないのか」	0.6936
2 香山リカ「読者」入門」	0.6897
3 新藤兼平「俺たちはカンガムのジムである」	0.6866
4 香山リカ「俺は日本人は劣っているか」	0.6855
5 香山リカ「いざぞきり (再臨)」	0.6830

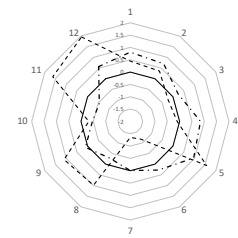
※朝日新聞版を使用

「おたく(族)」から「オタク」への転回を主張した人間の一人による著書だが、類似度の高い書籍を見るとむしろ後の劣化言説のベースになっている？

林道義 父性の復権

中公新書 / 1996年

単語数74,266 / 文の数2,618



単語	100文頻度
子ども	15.2788
父	13.4072
できる	11.6501
持つ	10.7716
父親	10.6570
言う	9.8167
自分	7.5630
人間	5.0038
必要	4.6218
母	4.4691
因子分析使用単語	
子ども	15.2788
父親	10.6570
価値	4.2781
親	4.1253
母親	4.0871
中心	3.8197
イメージ	3.7815
教える	3.7433
示す	3.3995
被害	3.3995

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
カテゴリー1	68.2200	77	58.0716
カテゴリー2	80.9015	86	57.0095
カテゴリー3	14.9351	113	52.3867
カテゴリー4	25.7066	63	58.4755
カテゴリー5	27.3109	51	59.6649
カテゴリー6	19.1749	112	52.7713
カテゴリー7	18.8312	149	49.9091
カテゴリー8	7.7922	167	47.0763
カテゴリー9	14.2857	125	51.0022
カテゴリー10	10.4660	208	45.4010
カテゴリー11	6.3407	233	44.5206
カテゴリー12	19.2513	90	55.6730

因子	得点	順位
因子1	0.4438	80
因子2	0.3606	89
因子3	-0.2329	171
因子4	-0.0987	143
因子5	1.5747	11
因子6	-1.1741	295
因子7	-1.3491	323
因子8	0.9909	26
因子9	1.1016	37
因子10	-0.3735	199
因子11	1.6206	17
因子12	1.9548	11

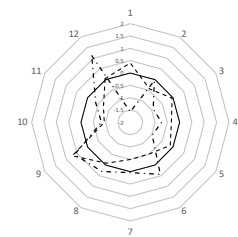
コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 小浜忠彦「やっばりバカが増えている」	0.6857
2 正高俊男「ケアワイドを持ったサル」	0.6720
3 小浜忠彦「人はロビで生きていけないか」	0.6619
4 井田珠英「一億総ガキ社会」	0.6455
5 江原啓之「子どもが危ない！」	0.6431

保守系の教育論として話題になったもの。ただし類似度の高い書籍は若者バッシング系の本が多く、結局のところ若者論であったか。

宮崎哲弥 正義の見方

洋泉社 / 1996年

単語数79,061 / 文の数2,801



単語	100文頻度
いう	7.4259
正義	5.2481
できる	4.7126
言う	4.2842
問題	3.7844
責任	2.9989
オウム	2.9989
思想	2.8561
日本	2.7490
劣る	2.6776
因子分析使用単語	
責任	2.9989
思想	2.8561
選択	2.2849
近代	2.2135
個人	2.1421
社会	1.7851
読者	1.7137
世代	1.6780
認める	1.6066
いまだ	1.5709

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
カテゴリー1	39.5573	311	34.2961
カテゴリー2	73.7237	183	49.4952
カテゴリー3	8.4430	275	40.7020
カテゴリー4	13.7094	240	42.9910
カテゴリー5	11.1389	277	40.2674
カテゴリー6	20.2785	88	54.3371
カテゴリー7	19.2788	144	50.4037
カテゴリー8	11.4602	83	53.0031
カテゴリー9	18.8861	76	56.1088
カテゴリー10	7.1403	268	41.7085
カテゴリー11	7.8900	180	46.2179
カテゴリー12	23.4559	44	61.2244

因子	得点	順位
因子1	0.4069	85
因子2	-0.4371	215
因子3	-0.0403	134
因子4	-0.3337	197
因子5	-0.1292	154
因子6	-0.5136	249
因子7	-0.4952	236
因子8	-0.0882	116
因子9	0.7187	55
因子10	-0.9419	301
因子11	-0.7404	273
因子12	0.0476	149

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 斎藤寅次郎「藤田の分門」	0.8374
2 小浜忠彦「やっばりバカが増えている」	0.7010
3 西条照「国民の道徳」	0.6931
4 八木秀次「国民の思想」	0.6824
5 斎藤寅次郎「判断される日本」	0.6747

※新潮社1 文庫版を使用

保守系の若手論客として売り出していた著者の最初期の著作。彼が批判している「新しい歴史教科書をつくる会」の「国民」シリーズが近い位置に来ている。

単語カテゴリーの説明……カテゴリー1…一般的なもの、カテゴリー2…社会評論的な単語、カテゴリー3…コミュニケーション、カテゴリー4…いわゆる若者文化、カテゴリー5…エッセイ・愚痴的な単語、カテゴリー6…犯罪・社会問題、カテゴリー7…政治思想、カテゴリー8…メディアカルチャー、カテゴリー9…政治、カテゴリー10…教育・経済、カテゴリー11…ロジエ論的な単語、カテゴリー12…社会思想・哲学

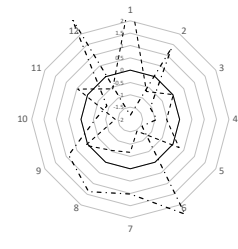
大澤真幸

虚構の時代の果て

オウムと世界最終戦争

筑摩書房 / 1996年

単語数112,059 / 文の数3,306



単語	100文検数	カテゴリ別	使用率	順位	備考値
理想	9.584	1	36.4186	325	31.6926
他者	9.2257	2	87.1143	23	63.5136
できる	8.1065	3	7.3503	295	39.3441
オウム	7.8342	4	12.2505	277	40.7715
虚構	7.6820	5	7.1668	322	35.5055
身体	7.5318	6	34.3618	10	74.3196
現実	6.5941	7	28.1609	41	60.2162
世界	6.5664	8	18.1488	31	63.8108
超越	4.8397	9	21.3854	59	58.8830
意味	4.4465	10	9.3769	228	44.1918
因子分析使用単語		11	3.1155	315	40.9875
他者	9.2257	12	35.9044	6	77.6604

因子	得点	順位
1	3.0357	7
2	-0.6890	250
3	0.0159	122
4	-0.5264	245
5	0.2838	61
6	-1.4559	308
7	-0.6670	275
8	-5.5445	294
9	0.0936	122
10	-1.3892	321
11	0.4614	87
12	-0.5693	263

コサイン類似度の高い書籍 (全単語、100文検数)	コサイン類似度
1 大澤真幸「不可能性の時代」	0.8100
2 櫻村俊子「ネオレバリスムの精神分析」	0.5630
3 宇野浩二「母性のディストピア」	0.5624
4 宮崎哲野「蘭国の方程式」	0.5429
5 東浩吉「アランの心 観死者の哲学」	0.5307

※ちくま学芸文庫版を使用

「虚構の時代」なる概念を生み出した著作。類似度の高い書籍を見ると、むしろサブカルチャー系の社会評論のベースになったと言える。

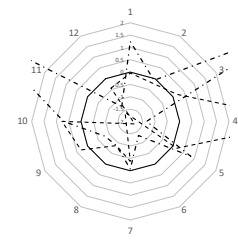
山田昌弘

結婚の社会学

未婚化・晩婚化はつづくのか

丸善ライブラリー / 1996年

単語数39,949 / 文の数1,455



単語	100文検数	カテゴリ別	使用率	順位	備考値
結婚	-0.8247	1	73.4708	39	62.2471
女性	21.9244	2	73.4708	190	49.2304
男性	18.7629	3	44.4674	1	103.1698
人	13.6770	4	9.0722	316	36.5899
男女	11.1340	5	26.1856	61	58.3151
できる	9.6220	6	7.7663	315	36.5839
自分	7.4227	7	18.2818	152	49.3022
いる	6.0481	8	4.1924	298	41.2597
恋愛	5.2921	9	6.1168	251	41.9344
思い	5.2921	10	20.3622	56	57.9550
因子分析使用単語		11	56.1512	2	99.0974
結婚	-0.8247	12	5.0859	314	36.9707

因子	得点	順位
1	-0.0399	135
2	-0.2052	174
3	0.1887	102
4	5.131	3
5	0.1726	78
6	-4.2424	324
7	-0.3820	213
8	-0.8684	323
9	0.3119	88
10	0.7744	43
11	-2.2027	326
12	-0.4391	247

コサイン類似度の高い書籍 (全単語、100文検数)	コサイン類似度
1 山田昌弘「少子社会日本」	0.7838
2 永田麗栄「生涯未婚時代」	0.7794
3 香山リカ「(嫁子さま) はあなたと一緒に泣いている」	0.7203
4 山田昌弘「ハワサイトの社会のゆくえ」	0.6421
5 貞原新児「ぼくたちの女社会」	0.6088

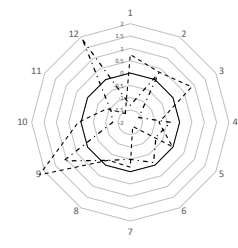
後に広告代理店的なセンスを発揮できるようになる社会学者の初期の作品。類似度を見ると後の著者自身や家族社会学系の議論のベースになったものと捉えられる。

加藤典洋

敗戦後論

筑摩書房 / 1997年

単語数100,632 / 文の数3,241



単語	100文検数	カテゴリ別	使用率	順位	備考値
いっ	10.7682	1	42.7357	289	36.9309
戦争	7.2360	2	77.0441	142	52.9713
歴史	7.0565	3	4.1962	328	23.2024
書く	6.9732	4	16.5381	187	46.4126
自分	6.3869	5	12.5887	251	42.0064
歴史	6.2018	6	16.3838	167	48.8111
戦争	6.1401	7	14.3783	221	44.9898
問題	5.9241	8	8.2382	153	47.7969
死者	5.4613	9	23.5421	46	61.2771
見える	5.0602	10	3.0546	327	37.1721
因子分析使用単語		11	1.2959	330	38.9941
戦後	7.4360	12	28.9725	15	68.5081

因子	得点	順位
1	0.7494	59
2	0.3469	90
3	-0.8791	50
4	-0.8362	303
5	-0.0234	125
6	-1.8133	315
7	-0.1824	157
8	-2.2500	157
9	2.2571	10
10	0.1131	114
11	-0.9006	287
12	-1.5870	317

コサイン類似度の高い書籍 (全単語、100文検数)	コサイン類似度
1 加藤典洋「戦後入門」	0.6884
2 藤原謙一「ぼくらの民主主義なんだぜ」	0.6726
3 宮崎哲野「正義の民力」	0.6520
4 辺見庸二「戦後敗戦」	0.6442
5 宮崎哲野「蘭国の方程式」	0.6412

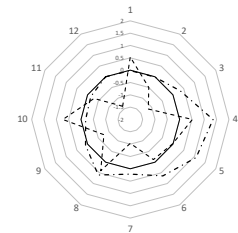
※ちくま学芸文庫版を使用

歴史を絡めた評論的な書籍。ただ、類似度の高い書籍は歴史よりも時事のほうが多いのが気になる。

因子の説明……因子1…認識論的傾向、因子2…情緒的傾向、因子3…政治論的傾向、因子4…家族論的傾向、因子5…行動学的傾向、因子6…社会的傾向、因子7…労働経済論的傾向、因子8…教育論的傾向、因子9…国家論的傾向、因子10…時事評論的傾向、因子11…世代論的傾向、因子12…計量分析的傾向

宮台真司 まぼろしの郊外

成熟社会を生きる若者たちの行方
朝日新聞社 / 1997年
単語数93,468 / 文の数3,108



単語	100文頻度
女子高校生	7.2394
言う	6.6924
問題	6.3385
できる	5.2425
学校	4.5367
社会	4.4723
いる	3.8610
男	3.7645
東京	3.6680
子	3.5393
子	3.5393
因子分析使用単語	
学校	4.5367
男	3.7645
東京	3.6680
子	3.5393
コミュニケーション	3.2175
作家	2.8636
ドイツ	2.8314
生きる	2.5740
相手	2.5097
私たち	2.3488

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
1	58.2690	174	49.8173
2	74.0669	177	49.8545
3	15.4762	103	53.3172
4	29.5689	26	63.5569
5	28.2819	44	60.8395
6	21.7503	70	56.4255
7	20.8494	119	52.1388
8	13.3205	58	56.0090
9	14.2535	127	50.9664
10	12.9022	162	48.1059
11	10.0064	137	48.5364
12	14.9614	143	50.0089

因子	得点	順位
1	0.5333	70
2	-0.4987	230
3	-1.1568	313
4	0.5178	51
5	-0.0224	123
6	-0.1219	199
7	-1.0335	311
8	0.4007	45
9	-0.7638	282
10	-0.7375	48
11	-0.2999	206
12	-1.3766	309

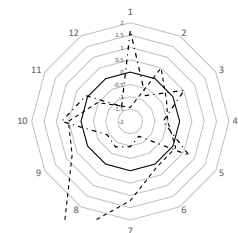
コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 宮台真司「終わりにき日曜を生きる」	0.6894
2 宮台真司「日本の絶頂」	0.6787
3 宮台真司「風立ちほぐしてから来て、どこへ行くのか」	0.6584
4 寺脇良典「国中同級生」(入山れいこも、抜けたら読め!)	0.6279
5 斎藤義典「分析される日本」	0.6157

※朝日文庫版を使用

著者の若者論としてはこの時点で完成されているか。評論で取り扱うトピックはほぼ変わらないので本書を読めば同じ著者の社会時評はほとんど読まなくていい。

寺脇研 動き始めた教育改革

教育が変われば日本が変わる！
主婦の友社 / 1997年
単語数52,929 / 文の数2,031



単語	100文頻度
学校	11.0783
言う	9.7981
高校	8.9611
子ども	8.7149
言う	8.6657
大学	8.3703
教育	7.0409
できる	6.4008
理解	6.1546
自分	5.6730
因子分析使用単語	
学校	11.0783
高校	8.9611
子ども	8.7149
大学	8.3703
教育	7.0409
子供達	4.7267
行く	4.5298
先生	4.3821
やる	4.3328
入る	3.5943

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
1	78.8282	10	66.8709
2	66.6667	267	42.1073
3	16.5928	83	55.2373
4	14.1802	233	43.3104
5	25.5539	69	57.5575
6	8.0256	311	36.9518
7	10.0935	280	40.2562
8	4.6283	281	41.9639
9	5.1206	278	40.8286
10	21.6652	53	57.8344
11	12.0630	98	50.7993
12	5.1206	313	37.0159

因子	得点	順位
1	-1.4304	328
2	0.4954	78
3	-0.2990	185
4	-0.4833	236
5	0.1220	91
6	0.1417	148
7	1.2117	34
8	3.4735	6
9	0.7238	54
10	0.5089	69
11	-0.4707	233
12	-1.2825	306

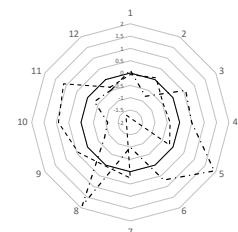
コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 寺脇研「何処へ向かう教育改革」	0.8848
2 寺脇研「 درباره ゆとり教育」	0.7884
3 寺脇研「教育の国家支配がすすむ」	0.7620
4 永山啓三郎「現場から見た教育改革」	0.7403
5 内田順「下流志向」	0.7363

※朝日文庫版を使用

当時の文部省のスポークスマンとして「ゆとり教育」推進の立場を取った著者による書籍。内容としては同じ著者の他の著作と変わることはないかも。

藤本由香里 私の居場所はどこにあるの？

少女マンガが映す心のかたち
学陽書房 / 1998年
単語数120,772 / 文の数3,868



単語	100文頻度
自分	9.4105
女	9.0228
学校	8.4381
学生	5.9721
主人公	5.8687
いう	5.8687
言う	5.1965
女性	4.7828
いる	4.4984
仕事	4.1882
因子分析使用単語	
女	9.0228
男	8.4281
作品	5.9721
女性	4.7828
仕事	4.1882
国文	3.8780
物語	2.7404
相手	2.5336
母親	2.4043
新しい	2.0941

カテゴリ別	使用率	順位	偏差値
1	59.9018	162	51.1717
2	66.7528	264	42.1975
3	16.9855	76	55.9126
4	22.9835	100	54.8927
5	35.3671	18	69.3279
6	22.1562	63	57.0013
7	9.9535	281	40.1014
8	21.3547	22	68.9910
9	6.2306	247	42.0607
10	4.8604	307	39.1771
11	8.4540	165	46.8357
12	11.3754	202	45.2742

因子	得点	順位
1	-0.0622	140
2	0.0885	119
3	-0.4654	220
4	-0.3859	209
5	-0.1621	169
6	-2.3497	323
7	0.2565	85
8	0.0386	85
9	0.4364	75
10	0.9151	40
11	1.1263	33
12	-0.3545	231

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文頻度)	コサイン類似度
1 菅原朝子「読者のフェミニズムは没落したのか」	0.377
2 菅原朝子「女子をこぼせ」	0.308
3 伊藤香香「恋愛至上主義」	0.7185
4 上野千鶴子「女子がい」	0.6946
5 カレー河原「女って何だ？」	0.6843

※朝日文庫版を使用

少女漫画分析の書籍。本書で採り上げたフェミニズム系の書籍がだいたい近い位置にある。この分野のベースになっている本なので興味のある人はどうぞ。

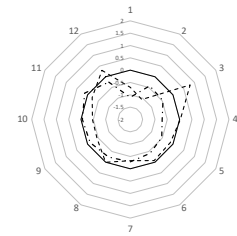
単語カテゴリの説明……カテゴリ1…一般的なもの、カテゴリ2…社会評論的な単語、カテゴリ3…コミュニケーション、カテゴリ4…いわゆる若者文化、カテゴリ5…エッセイ・愚痴的な単語、カテゴリ6…犯罪・社会問題、カテゴリ7…政治思想、カテゴリ8…メディアカルチャー、カテゴリ9…政治、カテゴリ10…教育・経済、カテゴリ11…ロジエ論的な単語、カテゴリ12…社会思想・哲学

櫻井よしこ

日本の危機

新潮社 / 1998年

単語数110,600 / 文の数4,976



単語	100文検定
日本	6.3103
言う	3.7178
子供	3.3360
述べ	2.9743
いう	2.8135
女性	2.6527
問題	2.4920
少	2.3915
語る	2.3513
いる	2.3312
因子分析使用単語	
子供	3.3360
述べ	2.9743
女性	2.6527
語る	2.3513
中国	2.2106
国民	1.8087
機	1.5975
国	1.4670
情報	1.4068
振興	1.3867

カテゴリ別	使用率	順位	備考値
1	45.2170	273	38.9908
2	70.1367	228	45.7400
3	10.8119	211	45.2966
4	13.8867	238	42.9242
5	14.8613	212	44.7002
6	14.3489	215	45.9237
7	16.3585	184	47.1774
8	8.1190	157	47.6043
9	12.3191	142	48.8192
10	14.1077	144	49.4444
11	12.6206	92	51.4001
12	13.0426	172	47.4754

因子	得点	順位
1	-0.6949	241
2	-1.0619	299
3	0.8016	52
4	0.0292	112
5	-0.1254	149
6	-0.0731	191
7	-0.3287	195
8	0.0054	91
9	-0.4432	226
10	-0.4639	235
11	-0.2145	184
12	0.2979	101

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文検定)	コサイン類似度
1 櫻井よしこ『論戦1999』	0.8384
2 櫻井よしこ『論戦2000』	0.7742
3 櫻井よしこ『日本よ、なぜ動かない論戦2001』	0.7652
4 櫻井よしこ『明日への道を切り論戦2003』	0.7454
5 櫻井よしこ『変わるのほらしかなない論戦2002』	0.7420

※新潮文庫版を使用

右派の代表的な論客の初期の書籍。本書はややリベラルな社会認識も見受けられる。今と読み比べてみると面白いかもしれない。

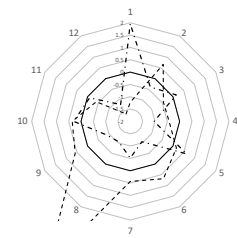
寺脇研

何処へ向かう教育改革

「どうなる学校」の疑問に全回答

主婦の友社 / 1998年

単語数53,080 / 文の数2,038



単語	100文検定
子ども	21.0991
学校	15.1129
できる	10.2061
高校	9.6173
言う	8.9794
大人	6.8204
大学	6.7223
自分	6.3297
語	6.2316
人	6.2316
因子分析使用単語	
子ども	21.0991
学校	15.1129
高校	9.6173
大人	6.8204
大学	6.7223
教育	5.8391
機	4.9558
やる	4.5633
生徒	4.3180
地産	3.9745

カテゴリ別	使用率	順位	備考値
1	82.1394	4	69.6175
2	70.5103	225	46.1312
3	14.4259	124	51.5112
4	11.3837	292	39.6311
5	24.5339	80	56.3339
6	9.6135	286	39.4887
7	14.2296	223	44.8255
8	3.0913	322	39.4804
9	5.2993	274	41.0269
10	17.2718	93	52.9975
11	10.5005	127	49.0776
12	5.7900	304	37.8997

因子	得点	順位
1	-1.2254	325
2	0.6673	62
3	-0.4508	216
4	-0.4274	222
5	0.1586	83
6	0.6838	62
7	0.4350	69
8	4.7056	4
9	0.5820	65
10	0.3568	98
11	-0.4053	223
12	-1.6544	320

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文検定)	コサイン類似度
1 寺脇研『動き始めた教育改革』	0.8848
2 尾木渥『子どもの危機をどう見るか』	0.7767
3 園部初二『おしこわす子どもたち』	0.7725
4 本山啓三郎『現場から見た教育改革』	0.7545
5 内田順『下流志向』	0.7128

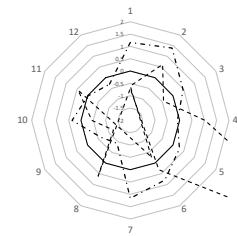
左項と同じ著者による書籍。内容は同じ著者よりも、2000年代初頭～半ば頃の若者論に近く、「ゆとり教育」推進派と反対派の呉越同舟が伺える。

門脇厚司

子どもの社会力

岩波新書 / 1999年

単語数68,100 / 文の数1,964



単語	100文検定
社会	21.8941
子ども	14.0020
いう	12.7271
人間	10.9470
行為	10.9470
子	9.8778
大人	8.8595
できる	8.6558
人	7.9939
相互	7.6375
因子分析使用単語	
子ども	14.0020
行為	10.9470
子	9.8778
大人	8.8595
能の	6.7719
問題	6.2627
みる	5.9572
子供達	5.8554
他者	5.1935
社会的	4.9898

カテゴリ別	使用率	順位	備考値
1	72.4542	48	61.5838
2	87.4236	22	63.8374
3	16.2923	85	54.7222
4	18.5845	159	49.1051
5	21.7413	114	52.9845
6	22.8615	56	58.0021
7	29.4297	36	61.6180
8	3.8697	304	40.7381
9	7.7393	221	43.7354
10	17.8717	83	53.6236
11	11.1507	115	49.7899
12	12.6273	185	46.9271

因子	得点	順位
1	-0.6073	227
2	0.6186	68
3	-0.4448	213
4	1.0297	26
5	7.7999	2
6	0.3169	119
7	-3.2871	330
8	0.6150	35
9	-1.2130	313
10	-0.4392	227
11	0.4430	91
12	-3.7115	329

コサイン類似度の高い書籍 (全単語, 100文検定)	コサイン類似度
1 門脇厚司『社会力をつける』	0.8321
2 小沢栄治『「ゆとり」が危ない』	0.7903
3 尾木渥『子どもの危機をどう見るか』	0.6321
4 正岡国男『ケータイを持った子』	0.6225
5 マークス寿子『日本はなぜここまで来たのか』	0.6163

「社会力」などという独自の概念を創出していまの若年層にはそれが不足しているとぶち上げた本。近いのは当然教育論よりも若者論だ！

因子の説明……因子1…認識論的傾向、因子2…情緒的傾向、因子3…政治論的傾向、因子4…家族論的傾向、因子5…行動学的傾向、因子6…社会的傾向、因子7…労働経済論的傾向、因子8…教育論的傾向、因子9…国家論的傾向、因子10…時事評論的傾向、因子11…世代論的傾向、因子12…計量分析的傾向